

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>テーマ：卒業論文の作成</p> <p>専門演習Ⅱで習得した観光地の調査方法・調査結果の分析・レポート執筆等の基本的技法を用いて、各自の卒業論文の作成を目標とする。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	調査の方法および調査結果の分析・整理、学術論文の書き方を身につけることができる。				調査結果の分析・整理	30%	
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				地域調査	20%	
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果についての指導教員の質問に対して、適切に答えることができる。				質疑応答	20%	
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				学術論文・資料の収集と整理	15%	
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果の執筆	15%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の地域調査の方法・内容・成果、論文の文章・地図・グラフ・表・写真の表現、質疑応答を総合して評価する。 執筆した序論の原稿は、個別の添削指導により適切な表現に仕上げる。また、序論の内容は、ゼミ内で口頭発表を行う。 							
授業の概要							
<p>演習の方法は、以下の手順で行う。</p> <p>(前期：全体指導と個別指導)</p> <p>1. 研究テーマと研究対象地域の決定 2. 研究関連の学術論文・資料の収集と分析</p> <p>3. 予備調査（現地の視察、聞き取り、文献・資料収集） 4. 予備調査結果の分析・整理</p> <p>(夏季休暇中：個別指導)</p> <p>5. 本調査（現地の視察、聞き取り、アンケート調査など） 6. 本調査結果の分析・整理（作表、作図など）</p> <p>(後期：個別指導)</p> <p>7. 分析・整理（論文の構成） 8. 卒業論文の執筆 9. 卒業論文要旨の執筆 10. 卒業論文の提出</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：各自の研究に必要な文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学術論文である卒業論文は、まだ誰も明らかにしていない事項について調査・研究するものであり、その研究成果がオリジナルでなければならない。関心のあるテーマとフィールドを早めに設定し、自分で調べた内容を取りまとめることである。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を説明する。	予習：シラバスを読む 復習：卒論テーマの考案
2	省察・個人目標の設定	3年次の学修成果を省察し、4年前期の個人目標設定の面談（卒業論文・進路）を実施する。	予習：卒論作成の構想 復習：卒論作成の構想
3	卒業論文の全体指導①	各自の研究テーマについて検討する。	予習：論文作成工程立案 復習：卒論テーマの検討
4	卒業論文の全体指導②	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	卒業論文の全体指導③	過年度池永ゼミ卒業生の卒論を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：論文構成・内容の分析
6	卒業論文の全体指導④	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
7	卒業論文の全体指導⑤	過年度池永ゼミ卒業生の卒論を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：論文構成・内容の分析
8	卒業論文の全体指導⑥	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
9	卒業論文の全体指導⑦	過年度池永ゼミ卒業生の卒論を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：論文構成・内容の分析
10	卒業論文の全体指導⑧	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
11	単位レポートの作成	卒業論文の序論および夏季現地調査計画書を作成する。	予習：序論・夏季現地調査計画書の作成 復習：序論の加筆修正
12	単位レポートの提出	卒業論文の序論および夏季現地調査計画書を提出・説明をする。	予習：序論・夏季現地調査計画書の修正 復習：調査計画書の修正
13	卒業研究中間発表	作成した序論をもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの修正	添削した序論について、個別指導を行う。	予習：序論の加筆修正 復習：序論の加筆修正
15	修正レポートの受理	修正した序論を提出する。夏季休暇中の現地調査の内容を検討する。	予習：レポート提出の準備 復習：夏季調査の検討

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、専門演習Ⅰ・Ⅱで身に付けた方法論を用いて、学生各自の卒業論文作成への道筋を示し、題目の決定、資料集め、調査、分析、論文執筆等、研究論文の完成を目的とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分で立てた題目に関し、十分な理論づけを行い、更に必要に応じて仮説の設定を行い、研究論文の執筆に結び付けることができる。				・論文執筆 ・グループ討議 参画	・40% ・20%	
情報収集、分析力	論文執筆に必要な文献の読み込み、WEBでの情報収集を行い、分析し、自論の展開に必要な情報を抽出し、更にこれを駆使して、論理的に論文を構成することができる。				・論文執筆 ・グループ討議 参画	・30% ・10%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
題目の設定、文献資料の収集、分析、仮説の構築、文献資料を適切に使用した理論構成、必要な現地調査等の実施、形式に則った構成、ゼミ内での必要な情報共有場面での積極的な参画等々を総合的に評価する。							
授業の概要							
まず学生各自が自分の最も興味のある項目を題目として設定する。その後題目のテーマに沿って参考文献、資料を収集、精読し自分自身で仮説を立てる。この仮説を根拠づける様に理論を展開し論文を構成して行く。論文作成の各局面における記述内容に関するフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。作成した論文が形式に則って論述されているかを評価する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：必要に応じ学生に指示する。 指定図書：・『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 ・『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康 講談社現代新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文の作成は、自身が過ごした大学での学生生活の総決算として、自分が最も興味を持った事柄について調査、研究、発表するものであり、オリジナリティーが重要な要素である。興味を持った事柄を早めに題目設定し、自分自身で調査し内容を深め、時間をかけて論文に仕上げて行く過程がこの演習の内容である。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	新たな目標、卒業研究を始めるにあたり年度の計画を確認し共有する。	・シラバス内容を理解しておく。 ・自身の卒業研究題目案を確認する。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復：本学期的目標設定清書
3	論文題目の確認	各自が策定した論文題目と論文作成までの過程を確認する。	予：研究題目の確認 復：執筆予定の整理
4	論文の作成計画（1）	論文作成計画を学び各自の計画を作成する。	予：題目と仮説の確認 復：計画の全体の確認
5	論文の作成計画（2）	各自の論文作成計画を発表し、討論により共有できる部分を共有する。	予：論文計画の確認 復：討議内容の再確認
6	論文の作成計画（3）	論文題目、目次、調査項目をレジュメ化する。	予：目次項目の整理 復：各項目の整理
7	卒業論文の全体指導（1）	各自の研究テーマに沿って文献、資料収集にあたる。（1）	予：文献、資料のリストアップ 復：収集文献の整理
8	卒業論文の全体指導（2）	各自の研究テーマに沿って文献、資料収集にあたる。（2）	予：文献、資料のリストアップ 復：収集文献の整理
9	卒業論文の全体指導（3）	文献・資料の読み込み（1）	予：文献の読み込み 復：文献の要点整理
10	卒業論文の全体指導（4）	文献・資料の読み込み（2）	予：文献の読み込み 復：文献の要点整理
11	卒業論文の全体指導（5）	文献・資料の分析とポイントの抽出（1）	予：分析ポイントの整理。 復：文献の要点整理
12	卒業論文の全体指導（6）	文献・資料の分析とポイントの抽出（2）	予：分析ポイントの整理。 復：文献の要点整理
13	論文序論の作成・実地調査予定等の設定	論文序論の作成開始、その他調査等計画を作成する。	予：序論記述準備 復：序論記述
14	卒業研究中間発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予：卒業研究発表準備 復：発表会の振り返り
15	単位レポートの作成・提出	序論下書きを作成し、レポートとして提出する。	予：序論記述準備 復：序論記述

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	井上 英也		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したホスピタリティ・マネジメントの理念、知識を基礎に、研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とする。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。				論文執筆	50%	
情報収集、分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理、分析した上で、独自の結論を導き出すことができる。				調査結果の内容	30%	
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。また、他者の研究に対し、適切なフィードバックをすることができる。				研究発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文執筆：50% 題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に評価。 調査結果：30% 題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理・分析力を評価。 研究発表：20% 聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価。 評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。							
授業の概要							
基本的に本授業においては、卒業論文の完成までのロードマップに従い、各自が授業外で準備してきた成果を発表、議論することで研究内容を深めていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「勝つための論文の書き方」鹿島 茂(著)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の概要理解。	予習：シラバスを読む 復習：年間計画の検討
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文の主題と骨子①	卒業論文の主題（仮題目）と骨子を考え、要旨をまとめる。	予習：論文主題の検討 復習：主題・骨子の作成
4	論文の主題と骨子②	主題（仮題目）と骨子の発表およびフィードバック。	予習：要旨の作成 復習：要旨の修正
5	論文作成の計画書①	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の作成
6	論文作成の計画書②	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の修正
7	論文作成の計画書③	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の修正
8	論文作成の計画書④	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の完成
9	論文作成の計画書提出・発表	計画書の提出および発表をおこなう。	予習：発表準備 復習：計画書の修正・完成
10	論文の中間報告①	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
11	論文の中間報告②	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
12	論文の中間報告③	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
13	論文の中間報告④	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の完成
14	卒業研究中間発表	卒業研究の中間発表	予習：発表準備 復習：発表会の振り返り
15	卒業論文中間報告提出総括	中間報告書の提出および夏期休暇中の計画書を作成する。	予習：夏期予定表の作成 復習：夏期予定表の完成

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅲ A (CF401)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次の「専門演習Ⅱ A・B」で進めている卒業研究のテーマについて、さらなる取組みを行い論文の完成を目指す。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学知識を深め、論文を完成させることができる。				学術論文の執筆	40%	
情報収集、分析力	文献を収集し、内容を理解分析することができる。				研究テーマに関する調査と文献渉猟	30%	
コミュニケーション力	学内外のフィールドワークや勉強会で協調性を養うことができる。				調査・勉強会での態度	20%	
協働・課題解決力	卒業研究論文のテーマにおける課題に取り組み、調査結果を発表することができる。				調査結果の分析と発表	10%	
多様性理解力						0%	
出席					受験要件		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の題目の決定力と執筆能力 40%、文献渉猟の積極性と理解力 30%、ゼミ内外のコミュニケーション能力 20%、発表 10% で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。 卒業論文のテーマに関する学術論文や文献を精読し、論文の章立てを考える。現地調査や聞き取り調査を行い、分析し整理する。卒業論文の執筆を進めて完成させる。							
教科書・参考書							
教科書：『野外博物館の研究』（雄山閣） 参考書：『観光資源としての博物館』『博物館と観光』（雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』							
授業外における学修及び学生に期待すること							
博物館学はあらゆる学問分野からの視座で論文に取り組むことができる。未踏の分野を研究することで、独自の学問領域を見出すことが肝要である。日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の活動を学ぶことが望ましい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	卒業研究論文の執筆に関する指導。	予習:シラバスの確認 復習:テーマの検討
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習:前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習:本学期的目標設定の清書
3	卒業論文の個別指導①	卒業研究論文の題目・章立てを考える。	予習:参考文献の調査 復習:全体の見直し
4	卒業論文の個別指導②	先行研究の渉猟。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
5	卒業論文の個別指導③	先行研究の渉猟	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
6	卒業論文の個別指導④	先行研究の精読。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
7	卒業論文の個別指導⑤	先行研究の精読。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
8	卒業論文の個別指導⑥	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
9	卒業論文の個別指導⑦	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
10	卒業論文の個別指導⑧	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
11	卒業論文の個別指導⑨	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
12	卒業論文の個別指導⑩	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
13	卒業論文の個別指導⑪	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
14	卒業研究発表	卒業研究の発表(中間および最終発表)	予習:研究発表の準備 復習:研究発表の振り返り
15	卒業研究発表反省会	卒業研究発表の合同反省会。	予習:研究発表反省会の準備 復習:研究発表会の総合的振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次の「専門演習Ⅱ」において、決定した卒業論文のテーマについて、各自がこれまで修得した専門的知識・技能を活かした上で、更に必要な情報の収集を行い、その完成を最終目標とする。また、完成する過程で、他のゼミ生たちとのコミュニケーションを通して、課題解決に向け協力し合う。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 直線回帰分析や分散分析といった統計手法を習得する。 卒業論文のテーマとして掲げた内容の背景について理解することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート プレゼン後のディスカッション 		20% 30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 文献を読み込み、内容を理解することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> プレゼン用レジュメ プレゼン後のディスカッション 		10% 20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション プレゼン後のディスカッション 		20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出 席				受験要件			
合 計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション (70%) については、卒業論文のテーマをその背景を含めて理解し、そしてその内容について自分の意見を述べられるか、参考文献の内容を理解できているかをその評価基準とする。プレゼン用レジュメ (10%) については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。課題レポート (20%) については、統計解析方法を理解した上で解析ができるかをその評価基準とする。</p>							
授業の概要							
<p>初めに、各々の卒業論文のテーマに関する参考文献を精読することで、卒業論文の目的を明確にした上で題目届けを完成させる。その後、更に参考文献を精読することで、卒業論文の研究背景をはっきりさせると共に、目的を達成するための方法について検討を行う。最終的には、方法を決定した上で、調査用紙の作成や実験計画の検討等の準備を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 指定図書：『健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方』 杏林書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「大学時代に何をしましたか？」という質問に対して「私は〇〇に関する卒業論文を書きました」と堂々と言えるような、また、社会に出て苦難に出会った時「あの苦しい卒業論文を完成できたのだから」と思い乗り越えられるような卒業論文を書くつもりでほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方について、担当順の決定	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 担当者以外：参考文献の検索
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	プレゼンテーション (1)	参考文献の紹介およびディスカッション (1)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 担当者以外：参考文献の検索
4	プレゼンテーション (2)	参考文献の紹介およびディスカッション (2)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 担当者以外：参考文献の検索
5	プレゼンテーション (3)	参考文献の紹介およびディスカッション (3)	卒業論文題目届け (タイトルおよびその概要)の作成
6	プレゼンテーション (4)	作成した題目届けの内容を発表 (1)	卒業論文題目届け (タイトルおよびその概要)の修正
7	プレゼンテーション (5)	修正を行った題目届けの内容を発表 (2)	卒業論文題目届け (タイトルおよびその概要)の作成 (最終版)
8	オリエンテーション (2)	論文の書き方について	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 担当者以外：参考文献の検索
9	プレゼンテーション (6)	参考文献の紹介およびディスカッション (4)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 担当者以外：参考文献の検索
10	プレゼンテーション (7)	参考文献の紹介およびディスカッション (5)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 担当者以外：参考文献の検索
11	プレゼンテーション (8)	参考文献の紹介およびディスカッション (6)	卒業論文の背景の作成
12	オリエンテーション (3)	卒業論文の方法について	卒業論文の方法の検討
13	プレゼンテーション (11)	卒業論文の方法を発表 (1)	卒業論文の方法の修正
14	卒業研究発表	卒業研究の発表 (中間および最終発表)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	プレゼンテーション (12)	卒業論文の方法を発表 (2)	卒業論文の方法の決定

授業科目 (CF401)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究への取り組みについては、専門演習Ⅱで研究してきたテーマに沿って、更に研究を進める。その研究成果について、ゼミの中で発表し議論を深め、卒業論文を作成することができる。(卒業論文の書き方と構成とその順序について理解する。論文のテーマとその概要について説明できる。)							⑥⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	指定された課題(論文のテーマ・目次・はじめに)に積極的に取り組むことができる。				・プレゼンテーション ・課題レポート	30% 30%	
情報収集、分析力	卒業論文の調査方法、内容、情報の集め方について学び実際に資料等の収集をすることができる。				・授業態度	20%	
コミュニケーション力	それぞれの研究成果の発表について、グループディスカッションができる。				・ディスカッション	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート 30%、プレゼンテーション 30%とし、課題に関して的確にプレゼンテーションを行うことができるか等から評価する。課題レポートについては、採点を行い、学生に返却しフィードバックする。 ・授業態度は 20%とし、卒業論文に必要な資料をきちんと収集できているか評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の卒業研究のテーマに沿って、レポートを作成し研究発表を行う。その過程で、研究内容についてゼミ生全員でグループディスカッションを行う。 ・卒業研究の作成にむけて個別指導を行う。 ・この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。 							
教科書・参考書							
教科書：花井等『論文の書き方マニュアル』有斐閣アルマ、2014 指定図書：花井等『論文の書き方マニュアル』有斐閣アルマ、2014							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究は、大学 4 年間の集大成である。それぞれの思いを卒業論文という形に残すために、最後まで踏ん張ってやり抜いてほしい。やり遂げた達成感は、社会人になって大きな壁にぶつかった貴方に、きっと勇気と自身を与えてくれるでしょう。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	卒業論文の取り組みについてスケジュールのたて方、心構えについてオリエンテーションを行う	卒業論文取り組みのスケジュールを考える。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	論文について	卒業論文の調査方法・先行論文の探し方、テーマ候補の絞り込みを学習する	指定された論文を読む
4	テーマに関する基礎知識（1）	基本資料文献・テーマ候補となるキーワードを探す。の扱い方・資料収集の勉強会を行う	テーマ候補のキーワードを探す
5	テーマに関する基礎知識（2）	論文のテーマを決める	キーワードを理解するための基本資料を集める
6	テーマに関する基礎知識（3）	テーマに合う基礎資料を収集する	基本資料を収集する
7	テーマに関する基礎知識（4）	基礎資料に目を通し、情報を整理する	問題意識を整理する
8	論文の構成について（1）	論文の構成とその順序を考える。目次を書く（アウトラインを書き出す）	データの配置を考える
9	論文の構成について（2）	「テーマ」と「目次」「はじめに」について発表し、ゼミ生で意見交換を行なう	はじめにを作成する
10	論文の構成について（3）	目次の章・節の表題や構成に検討を加える（章・節の表題や構成）	構成やレイアウトを確認する
11	論文の構成について（4）	序論・本論・結論での書く内容を考える	項目のアウトラインを作る
12	発表準備（1）	卒業論文の経過報告にむけて、発表の準備を行う	発表の準備をする
13	発表準備（2）	卒業論文の経過報告にむけて、発表の準備を行う	発表の準備をする
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	各自論文の進捗状況と今後の計画について検討する	今後の研究計画を設定する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CA 111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次までの学習を基に設定したテーマについて研究を行い、卒業論文を完成させる。観光学、日本の国際関係史、ならびに観光対象についての理解を、読み手に分かりやすく整理し、説明できるようになる。プレゼンテーションのスキルを身に付ける。協働と異文化尊重を実践する。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象に関わる歴史とその現状を理解し、説明できる。				期末レポート	40%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、研究対象に関する情報を収集する。				期末レポート	30%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習参加状況	10% 10%	
協働・課題解決力	卒業研究の過程で生じた自他の課題の解決に、協働して取り組むことができる。				演習への参加状況	5%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
演習への参加状況、ゼミ内での発表、ならびに期末レポートの3つの角度から評価する。							
授業の概要							
フィードバックは次の時点で行う。ゼミ内発表会：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。各回の演習に先立ち、必要な資料を配付するか、学生各自での収集を指示する。 参考書：小笠原喜康. 2002. 大学生のためのレポート・論文術. 講談社現代新書. 指定図書：白石隆. 2000. 海の帝国. 中公新書.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 無断欠席をしないこと。分からないことや困ったことが出てきたら、すぐに担当教員に相談すること。 2. 体力をつけること。分かりやすい文章を書くためには体力が必要。 3. データのバックアップを2つ以上の媒体に定期的にとること。プリンターのインクの予備を用意しておくこと。 4. 初志貫徹。「書き続けるのがつらい」と感じたら、ゴールに近づいてきた証拠。あと一息。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) ①研究に必要な資料をその都度指示・配布するので、要点をまとめておくこと。②毎回のレポートを書くうちに出てきた疑問点をまとめ、質問できるようにしておくこと。以下同じ。
2	省察	3年後期の学修成果を省察し、今期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 研究計画を説明できるようにする
3	卒業研究の準備	①研究計画の報告、②文献調査の指示	(復習) 文献調査実施
4	文献調査	文献調査の報告1 (研究対象の歴史)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
5	文献調査	文献調査の報告2 (研究対象の歴史)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
6	文献調査	文献調査の報告3 (研究対象の現状)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
7	文献調査	文献調査の報告4 (研究対象の現状)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
8	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
9	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
10	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
11	草稿執筆1	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
12	草稿執筆2	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
13	草稿執筆3	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
14	草稿執筆4	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
15	全体のまとめ	①草稿の提出、②草稿の要点の報告、③休暇中の作業予定を確認する。	(復習) スケジュール通り継続して作業する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の高い内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね解くことができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 480 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	40%	
情報収集、分析力	社会性の高い問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	35%	
コミュニケーション力	(1)社会性の高い内容のコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	5%	
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。 							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『アカデミック・スキルズ』佐藤望(監修)、慶応義塾大学出版会。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	花見	TOEIC 問題、花見に関する表現、翻訳研究、論文の書き方	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	八十八夜	TOEIC 問題、八十八夜に関する表現、翻訳研究、引用の方法	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	端午の節句	TOEIC 問題、端午の節句に関する表現、翻訳研究、参考文献の書き方	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	和装	TOEIC 問題、和装に関する表現、翻訳研究、図の書き方	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	帯	TOEIC 問題、帯に関する表現、翻訳研究、表の書き方	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	論文	TOEIC 問題、実際の論文を読み、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60 について調べる、課題論文を読む 復習：英文 51-60 音読筆写
9	お米	TOEIC 問題、お米に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70 について調べる、小テスト準備 復習：英文 61-70 音読筆写
10	塩	TOEIC 問題、塩に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	水	TOEIC 問題、水に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	衣替え	TOEIC 問題、衣替えに関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	七夕	TOEIC 問題、七夕に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	卒業研究発表	卒業研究の中間発表、および最終発表	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	TOEIC 小テスト、休暇中の学びについて、ディスカッション、翻訳研究	予習：TOEIC 小テスト準備 復習：小テストの振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	安部 雅隆		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<ul style="list-style-type: none"> 企業の持つ特徴や課題を発見できる能力を養い、その企業がとるべき今後の戦略を立案する。 卒業後働く上で必要となる実践的な知識やビジネススキルを習得する。 ケース作成を通じて、卒業研究に必要な論理的に文章を書く能力、自身の考えを論理的に説明できる能力を養う。 							①⑤ ⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	実社会で起こり得る企業内の問題・課題はいかにして表面化するか、そのプロセスが理解できる。				<ul style="list-style-type: none"> 受講者のプレゼン 授業内の発言内容 	40%	
情報収集、分析力	企業内の状況を分析することにより、その企業が抱える問題・課題を抽出することができる。				<ul style="list-style-type: none"> 受講者のプレゼン 授業内の発言内容 	30%	
コミュニケーション力	収集した情報を簡潔にまとめ、プレゼンテーション用ソフトを用いて人前で発表することができる。自身の考えを論理的に書くことができる。				<ul style="list-style-type: none"> 受講者のプレゼン 授業内の発言内容 	20%	
協働・課題解決力	実在する企業に内在する問題・課題を予め想定し、それを解決するためにいかなるアプローチが必要かを提言できる。				<ul style="list-style-type: none"> 受講者のプレゼン 授業内の発言内容 	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に担当者を決定し、自身が作成するケースの進捗状況を報告するプレゼンテーションを課す。本プレゼンテーションは、理論的かつ独創的な思考を内包しているかを評価する。加えて時間内で簡潔にまとめられているかについても評価の対象とする。 各プレゼンテーション終了後はゼミ生全員でディスカッションを行い、発表内容や発表方法について、詳細なフィードバックを実施する。ディスカッションへの参加度合いは評価の対象となる。 							
授業の概要							
<p>以下の3点を中心に据えながら、本演習を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 個別の企業の調査を行い、各自がケースを作成する。またそのケースについてプレゼンテーションを行う。 作成したケーススタディを基に、卒業研究の作成を行う。ケーススタディ作成同様に卒業研究の進捗状況や今後の作成計画について担当者を決め、プレゼンテーションを行う。 <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書；特に指定しない。</p> <p>参考書；「1からの経営学」(中央経済社)「ゼミナール経営学入門」(日本経済新聞社)</p> <p>指定図書；「入門経営学」(新世社)</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

ケース作成および卒業研究の作成については、授業外での調査・研究が非常に重要になる。従って、授業外でも研究・調査にしっかりと時間を確保することを厳守してほしい。そのうえで、分析方法や論文の構成について質問があれば気軽に尋ねてほしい。

また受講者は毎回必ず参加し、議論に参加すること。無断欠席は評価の上で大幅な減点となるので注意するように。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の受講者の紹介や演習形式の説明、また円滑な運営を行っていく上でのルール等の説明を行う。	専門演習ⅢAのシラバスを読む。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習:前学期の省察と本学の目標設定の下書き 復習:本学期的目標設定の清書
3	ケース作成について	『ケース作成』についてその方法や留意点などについて説明する。	ケースとなり得る素材を探す。
4	実際のケース参照 (1)	実際に企業や学校で用いられているケースを輪読し、今後作成するケースとはどういったものかをイメージづける。	配布したケースを読む。
5	ケースの対象となる企業選定 (1)	ケースの対象とする企業について候補をいくつか挙げる。その後候補の企業について概要を調査する。	候補となる企業を各々考える。
6	ケース作成の進捗状況発表 (1)	担当者を決定し、ケース作成の進捗状況をプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
7	ケース作成の進捗状況発表 (2)	担当者を決定し、ケース作成の進捗状況をプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
8	作成したケース発表 (1)	完成したケースについて内容のほか、作成のプロセスや感想などをプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
9	作成したケース発表 (2)	完成したケースについて内容のほか、作成のプロセスや感想などをプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
10	卒業研究 (1)	卒業研究について Thesis を設定する。	Thesis の意味について調べてくる。
11	卒業研究 (2)	卒業研究の章立てについて設定する。	章立てを考えてくる。
12	卒業研究 (3)	調査方法について議論・決定する。	調査方法について選択肢を考えてくる。
13	卒業研究 (4)	調査方法について議論・決定する。また、調査対象や調査場所についても決定する。	調査方法・調査場所について考えてくる。
14	卒業研究発表	卒業研究の発表 (中間および最終発表)	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
15	まとめ	夏季休業中の卒業研究の進捗予定を決定する。また、完成したケースレポートを提出する。	夏季休業中についての卒業研究進捗プランを作成してくる。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、卒業研究の作成を通して、各自が設定したテーマに関わる専門知識を習得すると共に、関連する情報や資料、文献を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら社会人として身につけておくべき基礎力の養成を図る。							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマに関わる基礎的事項を習得し、他者に説明することができる。 テーマに関わる専門的知識を習得し、そのテーマについて今何が問題となっているかを自分なりに説明することができる。				卒業論文 発表と討議	30 % 10 %	
情報収集、分析力	テーマに関する情報・資料・文献の収集方法について理解し、適切な方法を用いて必要な情報を調査することができる。 集めた情報・資料・文献などを的確に読み取り、客観的な考察を加えることができる。				卒業論文 発表と討議	20 % 10 %	
コミュニケーション力	卒業研究としてふさわしい体裁・構成を理解し、論理的な文章によって論文を書くことができる。 特定のテーマに関して他の受講者と討議することができる(傾聴・質問・応答)。				卒業論文 発表と討議	10 % 10 %	
協働・課題解決力	卒業研究のテーマを自ら設定し、そのテーマを探求する社会的意義について説明することができる。				発表と討議	10 %	
多様性理解力							%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、作成途中の卒業論文を60%、発表と討議を40%の比率で評価する。卒業論文については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席(特に課題発表の担当となっている日の欠席)は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業は卒業研究の作成を目標として概ね次の内容、手順によって進める。1. 卒業研究のテーマを設定し、執筆スケジュールを確認する。2. テーマに関する先行研究を読みながら研究方法を検討する。3. 卒業研究で探求する問いを確定し、必要な情報・資料・文献の収集を行なう。4. 論文の構成を考え、執筆にとりかかる。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書・参考書：特に指定しない。テーマに関する文献は適宜授業内で紹介する。 指定図書：白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方(第2版)』ミネルヴァ書房(2013)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究は、大学での4年間の学びを集大成する「作品」である。「作品」を生み出す過程は苦しいが、完成まで各自積極的に資料収集・調査・発表・執筆に取り組んでもらいたい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の進め方を説明し、卒業研究の執筆スケジュールを確認する。	復) 論文テーマの検討
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	テーマの設定	卒業研究として取組むテーマを各自発表する。	予) 発表準備 復) テーマの再考
4	研究方法の検討①	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 論文作成方法の復習
5	論文を構成する①	論文の問いと題目を確定し、大まかな論文構成を考える。	予) 発表準備 復) 論文構成の再考
5	研究方法の検討②	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 研究方法の検討
6	論文を構成する②	研究方法を確定し、論文の章立てを考える。	予) 発表準備 復) 論文の章立ての再考
7	論文を執筆する①	「はじめに」の部分の執筆にとりかかる。	予) 「はじめに」の執筆 復) 「はじめに」の再考
8	論文を執筆する②	「はじめに」の部分を発表する。	予) 「はじめに」の執筆 復) 「はじめに」の再考
9	論文執筆計画の策定①	論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、大まかな調査計画ならびに執筆計画を立てる。	予) 調査計画・執筆計画を立てる 復) 計画の再考
10	先行研究及び関連資料の検討①	テーマに関わる先行研究を収集し、紹介する。	予) 先行研究の収集 復) 「はじめに」の再考
11	論文を執筆する③	章立てに沿って、執筆できるところから執筆する。	予) 1章以降の執筆の開始 復) 論文執筆作業の継続
12	先行研究及び関連資料の検討②	テーマに関わる情報・資料・文献を収集し、紹介する。	予) 関連資料の収集と整理 復) 研究方法の再考
13	論文を執筆する④	集めた情報・資料・文献をもとに論文を執筆する。	予) 論文執筆作業の継続 復) 論文執筆作業の継続
14	卒業研究発表	卒業研究を発表する（中間および秋生は最終発表）。	予) 卒業研究発表準備 復) 発表会の振り返り
15	論文執筆計画の策定②	論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、調査計画ならびに執筆計画を見直す。	予) 論文執筆計画の確認 復) 論文執筆作業の継続

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
市民参加型のまちづくりプロジェクトを企画し、中心市街地の活性化を図るための実践をおこない、地域の観光情報を発信する。観光の情報発信の手段として映像撮影やFM放送の実践をおこない、番組を制作して放送することでメディアリテラシーを学ぶ。佐世保市のコミュニティFMで毎週日曜日に放送される60分の生番組を担当している。地域イベントの企画運営と実践的な活動をテーマに地域を学ぶ。							⑥⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	学生の視点で新しい活動やテーマを考え、イベントや番組の作成・出演において、自分の意思を正しく伝え、さまざまな企画ができる				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	40%	
情報収集、分析力	プレゼンテーション力はもちろん、情報機器の操作やネット関連の技術修得、情報コンテンツの作成や他者への提案ができる				企画・番組内容	30%	
コミュニケーション力	学年を超えて意思疎通を図り、チームにおけるコミュニケーション能力を身につけて、常に相手に思いやり、信頼関係を確立する。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	地域情報の発信のための文献検索や調査により地域の歴史を知り、さまざまな視点から物事を考察できる。				地域活性化の企画内容	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加度と情報コンテンツの理解と開発内容 ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、グループディスカッションでの内容 放送活動を通じてまちづくりに関する活動への参加と報告書 地域における調査やイベントの企画・実施等フィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。 企画やディスカッションは自分の情報機器でおこなう。 まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：伝わる・揺さぶる!文章を書く (PHP 新書)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この専門演習で専門知識や社会人基礎力を身につけ、地域の活性化に視点をおいて、地域に密着した活性化に役立つ情報、多角的な地域情報を集約し発信する情報発信基地としての役割を重視している。学生が見たまちの魅力を発信するとともに、市民とのコミュニケーションを促進することを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	テーマと到達目標	演習のテーマおよび授業における到達目標の決定	事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解すること
2	ポートフォリオ・SNS 登録と演習・面談	番組ポートフォリオ・Web の演習 個人目標設定のための面談を実施する	番組準備・番組ポートフォリオ確認すること
3	番組参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	活動拠点・スタジオの場所を把握すること
4	映像機器撮影 実践	専用ソフトを使った検索術・画像・データ管理	SNS の登録とメールアドレスを確認と事前準備すること
5	番組参加	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	番組テーマの決定すること
6	プレゼンテーション	ソフトウェア操作、3Dアニメーションデザインの演習	アニメーションのテーマを決めておくこと
7	映像編集	最新技術での映像ファイル作成演習	Youtube で映像イメージを考えておくこと
8	イベント企画	まちづくりイベントの企画 (情報コンテンツの開発を含む)	過去の事例をまとめること
9	番組・映像作成	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組ポートフォリオ確認すること
10	番組・映像参加	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	作成原稿の確認と読み合わせること
11	データ処理	計算表作成の応用・新ソフトウェア操作 グラフ・データベースの演習	EXCEL の操作と関数を予習すること
12	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	過去のイベント資料を確認すること
13	番組およびイベント制作実践	イベント企画の準備・情報収集をおこなう。	担当になった部門の情報をまとめる
14	番組およびイベント制作実践	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組ポートフォリオ確認すること
15	番組およびイベント制作実践	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	作成原稿の確認と読み合わせること

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	小島 大輔		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある事象の専門的知識を理解する。 ・興味関心のある事象に関するさまざまな問題点を考え、判断する論理的な考え方を身につける。 ・異なる考え方を理解し討議することができる。 							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究の目的、研究方法、結果および考察を区別し、説明できる。				課題レポート	40%	
情報収集、分析力	調査予定の事項および調査した内容を列挙できる。				受講者の発表	35%	
コミュニケーション力	調査の進め方、論文の作成計画、論文の内容に関して討議できる。				授業への参加度	25%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度は、受講者の発表におけるディスカッションへの参加度合を評価する。 ・課題レポートについては、様式の正しさおよび論文構成の適切さなどを評価する。 ・受講者の発表は、調査事項の適切さおよび調査した内容の多さなどから評価する。 ・発表内容に対しては、発表時に受講者でディスカッションされ、また担当教員からコメントが与えられる。 							
授業の概要							
<p>本演習では、まず調査報告の方法を学び、実際に調査報告をする。次に、論文の作成計画について学び、自らの作成計画を発表する。続いて、論文のまとめ方を学び、論文作成計画にしたがって論文を作成する。そして、作成した論文の経過報告を行う。各発表の際にはディスカッションを行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。</p> <p>指定図書：戸田山和久（2012）：『論文の教室—レポートから卒論まで 新版』NHK 出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>各プレゼンテーションは、成果の確認のみでなく、調査および論文執筆の進捗状況を確認するものでもある。担当の回において一定の成果を発表できるよう、研究の「リズム」を上げること。</p> <p>※本演習選択者は、いずれのコースも履修してよい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	専門演習のプロセスを理解し、目標を共有する。	復習：シラバスの再読
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	調査報告1 —調査報告の方法—	調査結果の表現方法および調査報告の方法を学ぶ。	復習：調査報告用レジメの作成
4	調査報告2 —調査結果の報告1—	調査結果の報告を行い、ディスカッションをする。	予習：調査報告用レジメの作成
5	調査報告3 —調査結果の報告2—	調査結果の報告を行い、ディスカッションをする。	予習：調査報告用レジメの作成
6	調査報告4 —調査結果の報告3—	調査結果の報告を行い、ディスカッションをする。	予習：調査報告用レジメの作成
7	論文の作成計画1 —論文作成計画の立て方—	論文作成計画の立て方を学ぶ。	復習：論文作成計画の作成
8	論文の作成計画2 —論文作成計画の作成—	論文作成計画を作成する。	予習：論文作成計画の修正
9	論文のまとめ方1	調査結果のまとめ方および論文の執筆方法を学ぶ。	復習：論文執筆作業
10	論文のまとめ方2	調査結果のまとめ方および論文の執筆方法を学ぶ。	復習：論文執筆作業
11	論文作成の経過報告1	論文作成の経過報告を行い、ディスカッションをする。	予習：論文執筆の経過報告用レジメの作成
12	論文作成の経過報告2	論文作成の経過報告を行い、ディスカッションをする。	予習：論文執筆の経過報告用レジメの作成
13	論文作成の経過報告3	論文作成の経過報告を行い、ディスカッションをする。	予習：論文執筆の経過報告用レジメの作成
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	専門演習の成果を確認する。	復習：論文の作成計画の再確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：「研究テーマを見つけ、関連する先行研究を探しサーベイしよう」 専門演習ⅠやⅡで学んできた理論や先行研究に基づき、各自が研究テーマを見つけ、それに関連するこれまでの先行研究をサーベイする。これらの蓄積から、この研究テーマの趨勢や残されている課題を見出すことを目標とする。これら一連の過程を通して、1つの適切な研究課題を見出せるようになる。これに付随して業界研究・企業研究の手法を学び、関心のある業界や企業について調べ、報告し、情報を共有する。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	専門書や先行研究などを解題することができる。				文献ノートの提出	50%	
情報収集、分析力	専門書や先行研究などを適切に収集して、学術的で社会的に意義のある研究課題を見出すことができる。				発表(プレゼン)	40%	
コミュニケーション力	積極的に議論に参加し、貢献できる。提出期日を守る。				討論	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
事前連絡のある欠席や遅刻は減点としないが、無断欠席や無断遅刻は、社会的観点から減点とする。 文献ノートは、指定する期日までにポートフォリオで提出する。期日を守らない場合は減点とする。 発表(プレゼン)では、作成した文献ノートがまとめられ、各自の研究課題が見出されているかを評価する。 討論では、他の学生の発表を聞く態度が適切か、他の学生の発表に対する質疑や意見が、積極的に行われているかが評価される。発表(プレゼン)および討論について、教員がコメントしフィードバックする。							
授業の概要							
各自が選ぶ研究テーマに関連するこれまでの先行研究を探し、文献ノートを作成し発表し議論する。研究課題に対する準備作業は、基本的に授業外における学習で行い、授業においては、授業外において得られた学習・研究の成果(経過)報告と意見交換に重点が置かれる。また、業界研究・企業研究をして発表し、情報を共有する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『経済論文の作法』 日本評論社 指定図書：『経済論文の作法』 日本評論社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
積極的かつ自主的に研究していくことを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい。観光マネジメントコース							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	先行研究の検索や収集方法を知る。文献ノートの作成方法を知る。前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	関心のあるテーマの先行研究5件を収集する。
2	前学期の省察と 本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	文献解題 (1)	1つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	1つ目の文献ノートを作成する。
4	文献解題 (2)	2つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	2つ目の文献ノートを作成する。
5	文献解題 (3)	3つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	3つ目の文献ノートを作成する。
6	文献解題 (4)	4つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	4つ目の文献ノートを作成する。
7	研究テーマの絞り込み	1～4 の先行研究を整理し、それぞれにどのような違いがあるのか、参考になった点は何かなどをまとめ、報告する。	1-4 の先行研究をまとめる。
8	文献解題 (5)	5つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	さらに先行研究4件を収集し、5つ目の文献ノートを作成する。
9	文献解題 (6)	6つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	6つ目の文献ノートを作成する。
10	文献解題 (7)	7つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	7つ目の文献ノートを作成する。
11	文献解題 (8)	8つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	8つ目の文献ノートを作成する。
12	文献ノートの整理	8件の先行研究を整理し、その研究の趨勢を把握し、参考になった研究手法や、まだ解明されていない研究課題を導き出す。	報告内容をまとめる。
13	研究課題の設定	これまでの研究成果を踏まえて、残されている研究課題とそれを研究する手法を報告する。	報告内容をまとめる。
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	業界研究・企業研究	関心のある業界や企業を選択し、それについて調査した結果を報告し、共有する。	報告内容をまとめる。 期末レポートを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	谷口 佳菜子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
本演習では、各自研究テーマを設定して、調査、分析、考察、発表、論文の執筆を計画的かつ主体的に取り組んでいくこと、また、発表を行う際、他の受講者にもわかりやすく説明できるようになることを目指す。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分の研究テーマに関する先行研究からわかったことをまとめ、説明することができる。				発表資料	50%	
情報収集、分析力	研究テーマに関する情報を収集し、その内容について分析することができる。				発表資料 発表	15% 15%	
コミュニケーション力	研究テーマに関する専門用語を理解し、それを用いて論文の内容を説明することができる。				発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>・受講者の発表や発表資料の形式については、授業内で指示する。 ※発表日に無断欠席した場合は、減点対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、各自設定した研究テーマについて調査し、調査結果の分析、考察を行い、その内容についての発表と論文の作成を行う。</p> <p>授業の前半では、論文とは何か、論文の構成や体裁、資料収集の方法等について学び、後半では各自の研究についてその進捗状況を発表してもらい、発表に対する議論を全員で行う。</p> <p>第1回の授業において、本演習の授業の内容や流れについて確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない。</p> <p>参考書：小池和男・洞口治夫編（2006）『経営学のフィールド・リサーチ「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社。その他、必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>指定図書：梶尾真・仁平尊明・加藤政洋編（2007）『地域調査ことばはじめ-あるく・みる・かく-』ナカニシヤ出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							

- ・各自が責任を持ち、積極的に研究テーマに取り組むことを期待する。
- ・パソコンの利用環境を整えておくこと。(ノートパソコンが望ましい)

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	ゼミの進め方やテーマについてオリエンテーションを行う。	復習：執筆スケジュールの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	論文について (1)	各自が設定したテーマと仮説について確認する。 研究計画書を作成する。	復習：研究計画書の作成
4	論文について (2)	論文とは何かについて学ぶ。	予習：配布資料の確認
5	論文について (3)	資料収集の方法を学び、各自、テーマに沿った資料を収集し、分析する。	予習：資料収集 復習：収集した資料内容の検討し、まとめる
6	論文について (4)	論文の構成について学ぶ。 各自、論文の題目を確認し、論文の構成、調査方法を考える。	復習：論文の題目と構成、調査方法をまとめる
7	論文について (5)	論文の体裁 (余白、文字の大きさ等の設定、参考文献の書き方、引用の仕方など)、論文における文章の書き方、図や表の入れ方について学ぶ。	予習：論文の体裁を整える 復習：配布資料の確認
8	論文の執筆・発表 (1)	先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表資料の作成
9	論文の執筆・発表 (2)	先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表資料の作成
10	論文の執筆・発表 (3)	論文の目次を作成する。 論文の概要と研究の進捗状況について発表し、議論を行う。	予習：目次の作成 復習：論文の執筆
11	論文の執筆・発表 (4)	論文の発表と議論を行う。	予習：論文の執筆、発表資料の作成 復習：論文の修正
12	論文の執筆・発表 (5)	論文の発表と議論を行う。	予習：論文の執筆、発表資料の作成 復習：論文の修正
13	論文の執筆・発表 (6)	論文の仕上がりについて最終確認を行う。 論文の要旨を作成する。	予習：仕上がりの確認をして推敲する 復習：要旨の作成
14	卒業研究発表	卒業研究の発表 (中間および最終発表)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	ゼミを振り返り、学習成果を確認する。	復習：これまで作成した論文の修正

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅲ A (CF401)			担当教員	原 哲弘		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで学び習得した【観光まちづくり】の手法を用いて、各自の卒業論文の作成を目標とし、プレゼンテーション力を身につけ 14 回目授業では発表をします。さらに【社会人基礎力】に必要な知識やマナーを修得します。</p>							⑥、⑦、⑩、⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会人として必要な幅広い専門知識を有し、就職活動など実践することができます。				・ 質疑応答	10%	
情報収集、分析力	自らがテーマとした卒業研究の取り組みの中で、アンケート等により情報収集を行い、分析・判断できるようになります。				・ 課題レポート	20%	
コミュニケーション力	社会人として必要な教養的知識を有し、インタビューや学外発表の機会があり、そこで就職活動時に必要なコミュニケーション力が身に付きます。				・ 学外発表会	20%	
協働・課題解決力	卒業論文の発表会や市民との協議により課題を理解し、表現力を身につけることができます。				・ 学内発表会	30%	
多様性理解力	観光に関わる専門的な知識を有し、観光まちづくりに関する事柄について説明することができます。さらに深く考える習慣を身につけることができます。				・ 試験	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の中間発表会を7月に実施する。また課題レポートを5回目、10回目に行い評価の対象とします。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。建築学や都市計画学の実務経験から、「観光まちづくり」として環境デザイン論、地域振興論等で学んだことを指導します。また卒業論文テーマの決定、研究に関する調査・分析、予備調査、アンケート、ヒアリングなどの指導を行います。更にディスカッションやフィールドワークを通して【社会人基礎力】に係わる基本的なことを学びます。							
教科書・参考書							
<p>教科書：各自のテーマに併せて、随時プリントを配布します。</p> <p>参考書：必要な図書は、随時指定します。なお書籍「犬と鬼」（著者アレックス・カー）は、必ず読んでください。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
将来、社会人や研究者になっても活かせる卒業論文のテーマを学習します。また学外ではヒアリングなど市民とのコミュニケーション能力を身につけ、公益的な施設（図書館、市役所など）を活用して、計画的に調査を自主的に行うことができるように指導します。併せてテーマにそって探求する楽しさを学び、達成感と満足感を体験してもらいます。卒業論文の中間発表を在学学生に対して開催することで、パワーポイントの表現力や言葉による表現力が身に付くことを期待します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	全体の流れを説明	全体の内容とスケジュールを説明します。	シラバスの熟読
2	卒業論文の説明	卒業論文の完成までの全体解説を行います。	論文について調べる
3	個別講義①	社会人として希望する業種業態、あるいは研究者としての方向性を個別面談しながら指導を行います。	自己分析のレポート作成
4	個別講義②	社会人として希望する業種業態、あるいは研究者としての方向性を個別面談しながら指導を行います。	自己分析のレポート作成
5	個別講義③	社会人として希望する業種業態、あるいは研究者としての方向性を個別面談しながら指導を行います。 課題レポート1回目	自己分析のレポート作成
6	資料調査方法の講義	図書館など公的施設を利用した調査を指導します。	公共施設の所在地調査
7	現地調査の講義	研究テーマに必要な現地調査方法について講義をします。	現地調査の手順を検討する。
8	ヒアリングの講義	研究テーマについてヒアリング対象や方法を学びます。	現地調査の方法を復習する。
9	アンケートの講義	研究テーマについてアンケートの方法やまとめを学びます。	ヒアリング対象者を検討する。
10	社会人基礎力の講義	就職活動に必要な面接、コミュニケーションを学びます。 課題レポート2回目	アンケート内容を精査する。
11	各自テーマのレジメ①	研究テーマのレジメの作成について個別指導をします。	レジメの再検討①
12	各自テーマのレジメ②	研究テーマのレジメの作成について個別指導をします。	レジメの再検討②
13	テーマとレジメの確定	テーマとレジメの見直しを行い、修正して確定します。	パワーポイント資料を作成する。
14	発表会の実施	全員が自ら研究テーマとした論文を発表します。 (10分/人)	10分以内に発表する練習
15	就職活動状況面談	就職活動状況について個別面談、個別指導を行います。	将来の方向性を考える。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	三浦 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、各自が研究テーマを設定し、仮説を立て、調査、分析、考察を行う一連の研究の姿勢を身につけること、論文を計画的に作成すること、研究内容について受講者同士が互いに議論できるようになることを目標とする。							①②⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する専門用語を理解し、それをを用いて論文の内容を説明することができる。 研究の独自性について、わかりやすく説明することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 受講者の発表 	20%	20%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する情報や先行文献を収集し、その内容について分析することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 成果物、発表内容から総合的に評価する 	20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 文献や資料、調査から得たデータ等を用いて、具体的でわかりやすい発表をすることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 受講者の発表 	20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に論文の執筆に取り組むことができる。 他の学生の研究内容について、的確な意見を言うことができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 受講者の発表 ゼミでのディスカッション 	10%	10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度・参加については、発表内容、議論への参加度合を評価する。 受講者の発表や研究計画書については、授業内で指示する。 							
授業の概要							
<p>本演習では、各自設定した研究テーマについて調査し、調査結果の分析、考察を行い、その内容についての発表と論文の作成を行う。前半では、論文とは何か、論文の構成や体裁、資料やデータの収集方法等について学び、先行研究について議論する。後半は各自の研究についてその進捗状況を発表してもらう。発表に対する議論を全員で行い、集約された要点についてフィードバックを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない</p> <p>参考書：要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>指定図書：『論文の書き方』、著者：澤田昭夫、講談社学術文庫</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> 研究とは何かを正しく理解し、意義ある研究テーマを設定することを期待します。 各自が責任を持ち、積極的に研究テーマに取り組むことを期待します。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	ゼミの進め方についてオリエンテーションを行う。	執筆スケジュールの確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文について (1)	論文とは何かについて学ぶ。卒業論文に向けてゼミ内で討議する。各自が設定したテーマと仮説について研究計画書を作成する。	予習：研究テーマを探す 研究計画書の作成と論文の構成を考える。
4	論文について (2)	資料やデータ収集の方法を学び、各自、テーマに沿った資料を収集し、分析する。	予習：資料収集 復習：収集した資料内容を検討し、まとめる
5	論文について (3)	論文の構成について学ぶ。各自、論文の題目を確認し、論文の構成、調査方法を考える。	予習：収集資料の確認 復習：論文の題目と構成、調査方法をまとめる
6	論文について (4)	論文の体裁（余白、文字の大きさ等の設定、参考文献の書き方）について学ぶ。	予習：執筆要項の確認 復習：論文の体裁を整える 配付資料の確認
7	論文について (5)	引用の仕方、論文における文章の書き方、図や表の入れ方について学ぶ。	予習：配布資料の確認 復習：論文の体裁を整える 配付資料の確認
8	論文の執筆・発表 (1)	先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表資料の作成 復習：修正部分の確認
9	論文の執筆・発表 (2)	論文の目次を作成する。 論文の概要と研究の進捗状況について発表し、議論を行う。	予習：目次の作成 復習：目次に沿った論文の執筆
10	論文の執筆・発表 (3)	調査が必要となる部分は、調査方法や実施時期について、具体的に検討する。	予習：論文の執筆 復習：調査方法と実施時期についての確認
11	論文の執筆・発表 (4)	論文の発表と議論を行う。それらの意見等を集約し、修正点についてフィードバックを行う。	予習：論文の執筆、発表資料の作成 復習：修正点の確認
12	論文の執筆・発表 (5)	論文の発表と議論を行う。それらの意見等を集約し、修正点についてフィードバックを行う。	予習：論文の執筆、発表資料の作成 復習：修正点の確認
13	論文の執筆・発表 (6)	これまでの作業をもとに、卒業論文の様式に沿った形で論文を構成する。論文の要旨を作成する。	予習：仕上がりの確認をして推敲する、要旨の作成 復習：修正点の確認
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	前期を振り返り、学習成果を確認する。	

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
本ゼミでは、「専門演習ⅠAB」、「専門演習ⅡAB」で学習してきた「総合型地域スポーツクラブ」の基礎知識や実践をもとに、先行研究や調査研究を実施することにより、科学的な視点で地域スポーツの現状を分析するノウハウを学ぶことをならいとしている。							⑤、⑥、⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・企画書、発表資料の作成	20%	
情報収集、分析力						%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、地域スポーツの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成 ・全体討議	30% 20% 30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。							
授業の概要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『地域を変えた 総合型地域スポーツクラブ』山口 泰雄 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツは誰のためのものか』杉山 茂 慶應義塾大学出版会							
授業外における学修及び学生に期待すること							
各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向いて行ったボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい スポーツツーリズムコース							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	ゼミのテーマと進め方についてのオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの誕生	総合型地域スポーツクラブ育成の背景と現状について	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの誕生	自治体のリーダーシップによる「スポーツクラブ21ひょうご」のモデル事例	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
4	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 130年余の歴史を誇る我が国の総合型地域スポーツクラブのパイオニア	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
5	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 自発的に立ち上がった団地型の総合型地域スポーツクラブ	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
6	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 企業施設と一体となったクラブ経営	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
7	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 震災からの復活にも寄与した地域住民のネットワーク	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
8	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) クラブのあり方を変えたクラブハウス	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
9	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 町対抗のイベント開催により促進されるまちづくり	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
10	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) クラブ員の帰属意識を高め多目的に利用されるあいあいルーム	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
11	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 地域住民が支える開放型小学校	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
12	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 市のマスタープランが後押しする地域ぐるみのスポーツ活動	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
13	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) NPO法人格を取得し専任マネジャーを配置する大型クラブ	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
14	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 地域のすべての利用団体をまとめ多様なイベントを開催	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
15	中間的評価と反省	前期のゼミ活動を振り返り、その成果を確認する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅲ A (CF401)			担当教員	内田 智子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
この演習では、専門演習Ⅰ・Ⅱで身につけた知識、方法を使って、卒業論文作成を行うことを目的とする。論文の書き方の基礎を学ぶとともに、テーマの設定、資料収集、資料調査を行い、論文のアウトラインを作り上げる。							⑤⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分でテーマを設定し、論文のアウトラインを作る。				発表資料 レポート	20% 30%	
情報収集、 分析力	論文執筆に必要な文献を読み、分析できる。				レポート	35%	
コミュニケーション力	他人の発表に対して意見を述べることができる。				討論	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表資料で20%、レポートで65%、発表後の討論への参加度で15%を評価する。発表内容、レポートに関しては、討論および個別指導でフィードバックを行う。							
授業の概要							
まず卒業研究のテーマを決め、そのテーマについて課題を設定する。そして、そのテーマに関して文献を読み込み、分析し、その結果を発表し、討論を行うことで論文完成への道筋をつける。それとともに、論文作成時のルールを学習し、実際に執筆を始める。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：授業中に適宜紹介する。 指定図書：高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育1』アスク、2004							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、大学4年間の学習の集大成として、卒業論文を作成することを目的とする。テーマを自ら見つけ出し、それについて調査、分析、研究を行い、授業中に発表およびレポート作成を行う。多くの資料を読む中で、オリジナリティーのある論文を作り上げるよう努力してほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	授業の進め方と発表の方法について説明する。	予習:シラバスを理解する 復習:卒業研究の題目を考えておく
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標設定の清書
3	論文の書き方の基礎	実際に論文を読み、論文の書き方の基礎を学ぶ。	予習:論文を読む 復習:小論文作成
4	課題設定	論文の題目に基づいて、調査内容、調査方法を考える。	予習:題目に関わる課題を考える 復習:レポート作成
5	論文作成計画	卒業論文の提出スケジュールを確認し、月ごとの目標及び論文作成の計画を立てる。	予習:論文提出スケジュール確認 復習:計画表作成
6	課題に関する意見交換 1	論文作成計画及び課題を発表し、学生同士で意見交換を行う。	予習:発表準備 復習:コメントシート作成
7	課題に関する意見交換 2	論文作成計画及び課題を発表し、学生同士で意見交換を行う。	予習:発表準備 復習:コメントシート作成
8	課題に関する意見交換 3	論文作成計画及び課題を発表し、学生同士で意見交換を行う。	予習:発表準備 復習:コメントシート作成
9	課題に関する意見交換 4	論文作成計画及び課題を発表し、学生同士で意見交換を行う。	予習:発表準備 復習:コメントシート作成
10	論文の章立て 1	論文の章立てを作成する	予習:論文のアウトラインを考える 復習:レポート作成
11	論文の章立て 2	論文の章立てを作成する	予習:章立てを完成 復習:各章の課題を考える
12	文献調査 1	各自が設定したテーマに基づき、文献調査を行う	予習:文献の読み込み 復習:要点整理
13	文献調査 2	各自が設定したテーマに基づき、文献調査を行う	予習:文献の読み込み 復習:要点整理
14	卒業研究発表	卒業研究発表（中間および最終発表）	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
15	レポート作成	序論及び研究の背景を執筆	予習:レポート作成準備 復習:レポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIA (CF 401)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。							①⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	35%	
情報収集、 分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	15%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の85%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	初期農耕牧畜社会の出現と拡散2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	古代インダス文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	柴田 あづさ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、卒業論文作成をとおして、履修学生が日本語教育学に関わる内容に関し「学術的に価値のある発見を」し、「論理の積み重ねによって説得」(石黒 2012) ができるようになることを目指す。							①⑤⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育学に対する知識を深め、論文を完成することができる。				卒業論文の執筆	50%	
情報収集、分析力	先行研究を収集し、内容を理解し、まとめることができる。データを収集して分析し、結果をまとめることができる。				先行研究の収集 データの収集および分析	30%	
コミュニケーション力	他の履修学生の発表に対して意見を述べることができる。				ディスカッション	10%	
	先行研究や調査結果について論理的に発表することができる。				プレゼンテーション	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の執筆に関わる能力を 50%、先行研究の理解と、データの収集および分析して結果をまとめる能力を 30%、中間発表におけるコミュニケーション力を 20% で評価する。また、提出された卒業論文の原稿と、ディスカッション、プレゼンテーション等のフィードバックを授業で行う。							
授業の概要							
まず、卒業論文の題目と章立てを決定する。次に、テーマに関する先行研究を精読し、未解決の課題を探る。そして、データを収集して分析し、結果を整理し、章ごとに卒業論文の執筆を進めていく。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本-この 1 冊できちんと書ける-』 日本実業出版社。 二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子 (2012) 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』 東京大学出版会。 指定図書：高見澤孟他 (2016) 『新はじめての日本語教育 1-日本語教育の基礎知識-相補改訂版』 ASK。 高見澤孟他 (2016) 『新はじめての日本語教育 2-日本語教授法入門-相補改訂版』 ASK。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文は大学時代の集大成である。自己の設定する課題に粘り強く向き合い、一生の宝となる「発見」をもってこれを完成させ、そして、忘れがたい達成感を得てほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	卒業論文執筆に関する指導を受け、執筆計画を立てる。	予習：シラバスを読む。 復習：テーマを検討する。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書きをする。 復習：本学期的目標設定の清書をする。
3	卒業論文の個別指導①	目的を検討し、問いを立てる。	予習：テーマを確定する。 復習：仮説を考える。
4	卒業論文の個別指導②	論文の題目と章立てを考える。	予習：題目を検討する。 復習：章立てを清書する。
5	卒業論文の個別指導③	先行研究を精読する。	予習：先行研究を探す。 復習：先行研究の要点をまとめる。
6	卒業論文の個別指導④	先行研究を精読する。	予習：先行研究を探す。 復習：先行研究の要点をまとめる。
7	卒業論文の個別指導⑤	先行研究の章を執筆する。	予習：先行研究の要点を整理する。 復習：先行研究の章を仕上げる。
8	卒業論文の個別指導⑥	調査の方法とデータの分析方法を検討する。	予習：調査方法に関する文献を読む。 復習：分析方法について理解を深める。
9	卒業論文の個別指導⑦	データを収集する。	予習：データを収集するための方法を確認する。 復習：データをまとめる。
10	卒業論文の個別指導⑧	データを分析する。	予習：データを準備する。 復習：分析結果を整理する。
11	卒業論文の個別指導⑨	データを分析する。	予習：データを準備する。 復習：分析結果を整理する。
12	卒業論文の個別指導⑩	分析結果の章を執筆する。	予習：箇条書きにした分析結果を確認する。 復習：執筆した文章を校正する。
13	卒業論文の個別指導⑪	分析結果の章を執筆する。	予習：校正した文章を確認する。 復習：執筆した文章を校正する。
14	卒業論文の個別指導⑫	中間発表の準備をする。	予習：PPTを作成する。 復習：PPTを修正する。
15	卒業研究発表	卒業研究について中間発表をする。	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course provides an opportunity for student plan, research, implement and report on a project in the community. Students will further develop language and personal skills through writing assignments, reading for research and maintaining a personal skills database.							4, 5, 7
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	Students will plan and complete a project in the community				Plan and report Implementation		20% 15%
情報収集、 分析力	Students will be able to improve written English using correct academic style				Assignments		30%
コミュニケーション力	Students will be able to discuss current projects and assignment with other students				In-class engagement		25%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 25% Project plan and report (Create a plan and reflection about a project): 20% Project implementation (Carry out the plan as necessary): 15% Assignments (Complete weekly assignments; maintain personal skills database): 30%							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss and research a local project. From this, they move on to preparing implementing it. The semester concludes with a report and reflection. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：None 参考書：J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書：Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> Introduce the course and review the syllabus Students learn about each other What is research? Previous experience 	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> <i>Rubric hyoka</i>, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays 	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> Conference with seminar teacher about personal goals for the semester Check <i>Rubric Hyoka</i> and 100 Book status 	Students meet with teacher about rubric
4	Local project week 1	<ul style="list-style-type: none"> Students present status update on local project 	Prepare status update
5	Local project week 2	<ul style="list-style-type: none"> Students present status update on local project 	Prepare status update
6	Local project week 3	<ul style="list-style-type: none"> Students present status update on local project 	Prepare status update
7	Local project week mid-term report	<ul style="list-style-type: none"> Students present mid-term report on local project 	Prepare mid-term report
8	Local project week 4	<ul style="list-style-type: none"> Students present status update on local project 	Prepare status update
9	Local project week 5	<ul style="list-style-type: none"> Students present status update on local project 	Prepare status update
10	Local project week 6	<ul style="list-style-type: none"> Students present status update on local project 	Prepare status update
11	Local project final report	<ul style="list-style-type: none"> Students present final report on local project 	Prepare final report
12	Personal skills database 1	<ul style="list-style-type: none"> Update personal skills database 	Prepare 5 skills
13	Personal skills database 2	<ul style="list-style-type: none"> Update personal skills database 	Prepare 5 skills
14	Personal skills database 3	<ul style="list-style-type: none"> Update personal skills database 	Prepare 5 skills
15	Review and final feedback	<ul style="list-style-type: none"> Review key points of seminar and goals 	Prepare final reflection

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、調査、分析、心理的考察、論文の執筆を計画的かつ主体的に取り組む。また、各自が作成した参考文献や調査・実験方法に関するプレゼンテーション資料をもとにディスカッションを行い、研究計画書を作成し、卒業論文の完成を目指す。							①⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究計画を立て、目的に対応した調査・実験方法を選択することができる。 研究テーマに関する専門用語を用いて、研究計画書を作成することができる。				研究計画書 プレゼンテーション資料	50%	
情報収集、分析力	研究テーマに関する参考文献を収集し、その内容について分析することができる。				プレゼンテーション資料	30%	
コミュニケーション力	スポーツ場面における心理的要因や研究方法等について自身の意見を発表し、ディスカッションに積極的に参加することができる。				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、専門演習Ⅱで作成した研究計画書をもとに、論文の構成や資料収集の方法について学ぶ。</p> <p>後半は、各自が設定した研究テーマに関する参考文献の発表を通して、卒業論文の研究背景および目的を明確にし、研究方法について検討する。初回授業にて担当者を決定したのち、担当者は事前に参考文献を精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとに報告をし、ゼミ内でディスカッションを行う。卒業研究のフィードバックや相互チェックなどはポートフォリオを用いて行う。最終的には研究方法を決定したうえで、研究倫理審査申請書および研究計画書を作成する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。各自の研究テーマに沿った文献を熟読すること。</p> <p>参考書：心理学論文の書き方（松井，2006）</p> <p>指定図書：スポーツ心理学事典（スポーツ心理学会，2008）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。パソコンの利用環境を整え、各自が責任を持って計画的に卒業論文に取り組むこと。</p> <p>※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、発表担当日の決定	復習：スケジュールの確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	研究計画書の作成（1）	研究テーマと仮説を確認し、研究計画書を作成	研究計画書の作成
4	論文の構成（1）	論文とは何か、論文の構成	論文構成を検討する
5	題目作成（1）	研究テーマと仮説をもとに題目を作成	卒業論文題目の作成
6	題目作成（2）	研究テーマと仮説をもとに題目を作成	卒業論文題目届の提出
7	プレゼンテーション（1）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
8	プレゼンテーション（2）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
9	プレゼンテーション（3）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
10	プレゼンテーション（4）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
11	論文の構成（2）	論文の目次を作成	卒業論文の目次の作成
12	調査・実験方法（1）	調査・実験方法と倫理的配慮	卒業研究倫理審査申請書の作成
13	調査・実験方法（2）	調査・実験方法についてディスカッション	研究方法についてレジюме作成、卒業研究倫理審査申請書の作成
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	研究計画書の作成（2）	研究テーマと仮説を確認し、研究計画書を修正	研究計画書の作成 休暇中の課題の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	宮本 彩		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡBにおいて決定した卒業論文の研究テーマについて、各自が主体的に取り組み、論文を執筆することを目的とする。この卒業論文に向けた研究活動を通して、スポーツへの理解を深めるとともに、論理的に自分自身の意見をまとめることを学ぶ。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	卒業論文の研究テーマとして掲げた内容の背景を理解し、論理的に説明することができる。				レポート及びプレゼンテーション	40 % (各 20%)	
情報収集、分析力	関連する文献を収集し、適切に知識および情報を読み取ることができる。				レポート	30 %	
コミュニケーション力	自分自身の経験や文献等から得た知識を基に、他者に対してプレゼンテーションすることができる。また、ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるることができる。				プレゼンテーション ディスカッション	20 %	
協働・課題解決力	測定実施や成果報告会に向けて、主体的に取り組むとともに、他者と協力することができる。				授業態度	10 %	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内での取り組みにおいて、卒業論文に向けたレポートを作成する。これらレポートの出来栄（論理的に文章が書けているかなど）について評価し、評価比率は全体の 50%とする。なお、レポートの提出はポートフォリオを通じて行い、学生個々への評価のフィードバックを行う。</p> <p>また、授業内での取り組みにおいてプレゼンテーションやディスカッションを複数回行う予定である。自分自身の意見を端的かつ論理的にまとめられているかについて評価する。評価比率は全体の 40%とする。</p> <p>取り組みに対する主体性と他者との協力について評価する。評価比率は全体の 10%とする。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では卒業論文の執筆に向けて、各自が設定した研究テーマについて取り組む。また、その取り組みをレポートやプレゼンテーションとしてアウトプットする。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：特に指定しない</p> <p>指定図書：『健康・スポーツ科学のための卒業論文／修士論文の書き方』 杏林書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本ゼミの内容に興味を持ち、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。</p> <p>ゼミ時間外においても、予習・復習として課題に取り組む必要があることを理解してほしい。</p> <p>いずれの取り組みも自分だけで行うことはできない。他者と協力することを最重要視する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	これまでの大学生生活の振り返り	昨年度までの大学生生活での学びを振り返る (自己分析)	復習：自己分析の結果を基に本学期の目標を考える
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを元に本学期の目標設定を行う。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	参考文献の検索・精読①	卒業論文の研究テーマに関する参考文献の紹介およびディスカッション（1）	予習：参考文献の検索・精読・要約レポート作成
4	参考文献の検索・精読②	卒業論文の研究テーマに関する参考文献の紹介およびディスカッション（2）	予習：参考文献の検索・精読・要約レポート作成
5	卒業論文のタイトルおよび概要作成①	卒業論文のタイトルおよび概要（卒業論文題目届）の作成	予習：卒業論文のタイトルおよび概要を検討
6	卒業論文のタイトルおよび概要作成②	卒業論文のタイトルおよび概要の発表およびディスカッション	予習：卒業論文のタイトルおよび概要の修正
7	卒業論文のタイトルおよび概要作成③	修正を行った卒業論文のタイトルおよび概要を発表	予習：卒業論文のタイトルおよび概要の最終版作成
8	論文の書き方	論文の構成ならびに書き方のレクチャー	復習：論文の書き方について再度確認する
9	卒業論文の背景①	卒業論文の背景について	予習：参考文献の検索・精読・卒業論文の背景の作成
10	卒業論文の背景②	卒業論文の背景を発表（1）	予習：参考文献の検索・精読・卒業論文の背景の作成
11	卒業論文の背景③	卒業論文の背景を発表（2）	予習：参考文献の検索・精読・卒業論文の背景の作成
12	卒業論文の方法①	卒業論文の方法について	予習：論文の書き方について確認する
13	卒業論文の方法②	卒業論文の方法を発表（1）	予習：卒業論文の方法を検討する
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	前期授業のまとめ 夏季休暇の研究活動および課題の確認	復習：後期の取り組みに向けた準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	宮本 彩		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡBにおいて決定した卒業論文のテーマについて取り組み、完成させることを最終目標とする。この卒業論文に向けた研究活動を通して、スポーツへの理解を深めるとともに、論理的に自分自身の意見をまとめることを学ぶ。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	卒業論文の研究テーマとして掲げた内容の背景を理解し、論理的に説明することができる。				レポート	40 %	
情報収集、分析力	関連する文献を収集し、適切に知識および情報を読み取ることができる。				レポート	30 %	
コミュニケーション力	自分自身の経験や文献等から得た知識を基に、他者に対してプレゼンテーションすることができる。また、ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるすることができる。				プレゼンテーション ディスカッション	20 %	
協働・課題解決力	測定実施や成果報告会に向けて、主体的に取り組むとともに、他者と協力することができる。				授業態度	10 %	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内での取り組みにおいて、卒業論文を執筆し、完成させる。卒業論文の出来栄（論理的に文章が書けているかなど）について評価し、評価比率は全体の70%とする。なお、執筆に向けて提出させるレポートは、ポートフォリオを通じて学生個々へフィードバックする。</p> <p>また、授業内での取り組みにおいてプレゼンテーションやディスカッションを複数回行う予定である。自分自身の意見を端的かつ論理的にまとめられているかについて評価する。評価比率は全体の20%とする。</p> <p>取り組みに対する主体性と他者との協力について評価する。評価比率は全体の10%とする。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では卒業論文の執筆に向けて、各自が設定した研究テーマについて取り組む。また、その取り組みをレポートやプレゼンテーションとしてアウトプットする。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：特に指定しない</p> <p>指定図書：『健康・スポーツ科学のための卒業論文／修士論文の書き方』 杏林書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本ゼミの内容に興味を持ち、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。</p> <p>ゼミ時間外においても、予習・復習として課題に取り組む必要があることを理解してほしい。</p> <p>いずれの取り組みも自分だけで行うことはできない。他者と協力することを最重要視する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	卒業研究の取り組みを振り返る	夏季休暇中の卒業研究の取り組みを振り返るとともに、今後の卒業研究に向けたスケジュールを再考する	予習：夏季休暇中の卒業研究の進捗をまとめる
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを元に本学期的目標設定を行う。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	進捗状況の発表①	卒業論文の進捗状況の発表およびディスカッション（1）	予習：発表の準備 復習：ディスカッションを踏まえての修正
4	進捗状況の発表②	卒業論文の進捗状況の発表およびディスカッション（2）	予習：発表の準備 復習：ディスカッションを踏まえての修正
5	データの取りまとめ	データの入力方法、解析についてレクチャーする	予習：データの確認 復習：データの取りまとめ作業
6	データの解釈①	調査および実験結果の検討（1）	復習：データを基にした考察
7	データの解釈②	調査および実験結果の検討（2）	復習：データを基にした考察
8	論文執筆①	これまで作成してきたレポートを取りまとめ、卒業論文としてまとめる（1）	予習・復習：卒業論文の執筆
9	論文執筆②	これまで作成してきたレポートを取りまとめ、卒業論文としてまとめる（2）	予習・復習：卒業論文の執筆
10	論文執筆③	これまで作成してきたレポートを取りまとめ、卒業論文としてまとめる（3）	予習・復習：卒業論文の執筆
11	論文執筆④	卒業論文を完成させる	予習：卒業論文の執筆
12	研究発表の準備	卒業論文を基に研究発表として内容をまとめる	復習：プレゼンテーションの準備
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1） 卒業論文の内容についてのプレゼンテーション	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2） 卒業論文の内容についてのプレゼンテーション	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ループリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ループリック(最終)記入

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	夏季休暇中の現地調査	卒業論文の現地調査の場所・日程・調査内容等について指導する。	予習：調査地の文献調べ 復習：調査内容の検討
2	省察・個人目標の設定 卒業論文の個別指導①	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定の面談(卒業論文・進路)を実施する。 各自が現地調査で得た資料や聞き取り内容等の整理を行う。	予習：調査結果の分析 復習：調査結果の整理
3	卒業論文の個別指導②	収集した資料・聞き取り内容を分析する。	予習：調査結果の分析 復習：調査結果の整理
4	卒業論文の個別指導③	収集した資料・聞き取り内容を分析する。	予習：論文構成・内容の分析 復習：調査結果の整理
5	卒業論文の個別指導④	本論の前半を執筆する。	予習：文章・図・表の作成 復習：添削原稿の修正
6	卒業論文の個別指導⑤	本論の前半を執筆する。	予習：文章・図・表の作成 復習：添削原稿の修正
7	卒業論文の個別指導⑥	本論の後半を執筆する。	予習：文章・図・表の作成 復習：添削原稿の修正
8	卒業論文の個別指導⑦	本論の後半を執筆する。	予習：文章・図・表の作成 復習：添削原稿の修正
9	卒業論文の個別指導⑧	本論の後半を執筆する。	予習：文章・図・表の作成 復習：添削原稿の修正
10	卒業論文の個別指導⑨	結論を執筆する。	予習：文章の作成 復習：添削原稿の修正
11	卒業論文の個別指導⑩	卒業論文の要旨を作成する。	予習：要旨執筆 復習：添削原稿の修正
12	卒業論文・要旨の提出	卒業論文の全体を最終確認して提出する。	予習：卒業論文の最終確認 復習：口頭発表の準備
13	卒業研究発表 (1)	作成した卒業論文をゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究発表 (2)	前回に続けて、口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活を省察する。	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、専門演習ⅢAから引き続き、学生各自の卒業研究論文の完成を目標とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分で立てた題目に関し、十分な理論づけを行い、更に必要に応じて仮説の設定を行い、研究論文の執筆に結び付けるようになる。				・論文執筆 ・グループ討議 ・参画	・40% ・20%	
情報収集、分析力	論文執筆に必要な文献の読み込み、WEBでの情報収集を行い、分析し、自論の展開に必要な情報を抽出し、更にこれを駆使して、論理的に論文を構成できるようになる。				・論文執筆 ・グループ討議 ・参画	・30% ・10%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
執筆した論文の内容の完成度のみならず、題目の設定、文献資料の収集、分析、仮説の構築、文献資料を適切に使用した理論構成、必要な現地調査等の実施、形式に則った構成、ゼミ内での必要な情報共有場面での積極的な参画等々を総合的に評価する。							
授業の概要							
まず学生各自が自分の最も興味のある項目を題目として設定する。その後題目のテーマに沿って参考文献、資料を収集、精読し自分自身で仮説を立てる。この仮説を根拠づける様に理論を展開し論文を構成して行く。論文作成の各局面における記述内容に関するフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。作成した論文が形式に則って論述されているかを評価する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：必要に応じ学生に指示する。 指定図書：・『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 ・『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康 講談社現代新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
専門演習ⅢAで準備した論文作成にあたっては、まず自分の仮説を立て、文献購読や現地調査等により、自分が立てた仮説を理論づけて行く課程が重要である。文献、資料の分析を適切に行い、自論の根拠として正しく使用し議論を展開する事が出来る様、先行論文の読み込み等で論述展開手法を学ぶ事が重要である。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	論文完成へのオリエンテーション	専門演習ⅢAでの結果の振り返りと、各自の論文完成への必要事項の確認。	予：自身の専門演習ⅢAの進捗状況を確認する。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復：本学期目標設定の確認
3	卒業論文の個別指導①	各自が現地調査で得た資料や聞き取り内容等の整理を行う。	予：調査結果の分析 復：調査結果の整理
4	卒業論文の個別指導②	収集した資料・聞き取り内容を分析する。	予：調査結果の分析 復：調査結果の整理
5	卒業論文の個別指導③	収集した資料・聞き取り内容と文献で得た情報を整理、分析する。	予：論文構成・内容の分析 復：調査結果の整理
6	卒業論文の個別指導④	本論の執筆を開始する。	予：文章・図・表の作成 復：添削原稿の修正
7	卒業論文の個別指導⑤	本論の前半を執筆する。	予：文章・図・表の作成 復：添削原稿の修正
8	卒業論文の個別指導⑥	本論の前半を執筆する。	予：文章・図・表の作成 復：添削原稿の修正
9	卒業論文の個別指導⑦	本論の後半を執筆する。	予：文章・図・表の作成 復：添削原稿の修正
10	卒業論文の個別指導⑧	本論の後半を執筆する。	予：文章・図・表の作成 復：添削原稿の修正
11	卒業論文の個別指導⑨	結論の執筆を開始する。	予：文章の作成 復：添削原稿の修正
12	卒業論文の個別指導⑩	卒業論文の要旨を作成する。	予：要旨執筆 復：添削原稿の修正
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予：卒業研究発表準備 復：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予：卒業研究発表準備 復：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予：ホスピタリティ・ルーブリック（自己）記入 復：ホスピタリティ・ルーブリック（最終）記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	井上 英也		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したホスピタリティ・マネジメントの理念、知識を基礎に、研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とする。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。				論文執筆	50%	
情報収集、 分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理、分析した上で、独自の結論を導き出すことができる。				調査結果の内容	30%	
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。 また、他者の研究に対し、適切なフィードバックをすることができる。				研究発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文執筆：50% 題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に評価。 調査結果：30% 題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理・分析力を評価。 研究発表：20% 聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価。 評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。							
授業の概要							
基本的に本授業においては、卒業論文の完成までのロードマップに従い、各自が授業外で準備してきた成果を発表、議論することで研究内容を深めていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「リーダーシップの旅」野田智義/金井壽宏(著)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習の概要理解。	予習：年間計画の見直し 復習：年間計画の修正
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	論文の個別指導①	序論を執筆する。	予習：序論の検討 復習：序論の執筆
4	論文の個別指導②	序論の発表をする。	予習：発表準備 復習：序論の完成
5	論文の個別指導③	本論の前半部分を執筆する。	予習：本論前半の検討 復習：本論前半の執筆
6	論文の個別指導④	本論の前半部分を執筆する。	予習：本論前半の執筆 復習：本論前半の完成
7	論文の個別指導⑤	本論の後半部分を執筆する。	予習：本論後半の検討 復習：本論後半の執筆
8	論文の個別指導⑥	結論を執筆する。	予習：結論の検討 復習：草稿の完成
9	論文草稿の完成・提出	草稿を完成し、要旨を発表する。	予習：発表準備 復習：草稿の修正
10	論文の個別指導⑦	草稿の改善点を修正する。	予習：草稿の修正 復習：草稿の修正
11	論文の個別指導⑧	草稿の改善点を修正する。	予習：草稿の修正 復習：草稿の修正
12	論文・要旨の完成・提出	卒業論文の体裁を整え、全体を最終確認して提出する。	予習：論文の完成 復習：発表準備
13	卒業研究発表①	卒業研究発表会①	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表②	卒業研究発表会②	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次の「専門演習ⅡA・ⅡB」及び4 年次「専門演習ⅢA」で進めてきた卒業論文の完成を目指す。							⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学知識を深め、論文を完成させることができる。				学術論文の執筆	40%	
情報収集、分析力	文献を収集し、内容を理解分析することができる。				研究テーマに関する調査と文献渉猟	30%	
コミュニケーション力	学内外のフィールドワークや勉強会で協調性を養うことができる。				調査・勉強会での態度	20%	
協働・課題解決力	卒業論文のテーマにおける課題に取り組み、調査結果を発表することができる。				調査結果の分析と発表	10%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の執筆能力 40%、図表・写真などの作成 30%、研究発表 20%、ゼミ内外のコミュニケーション能力 10% で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 前期に進めてきた卒業論文を完成させる。現地調査や聞き取り調査を継続し、文献渉猟も見直す。図・表・写真なども取り入れ、論文の体裁を整える。							
教科書・参考書							
教科書：『野外博物館の研究』（雄山閣） 参考書：『観光資源としての博物館』『博物館と観光』（雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』							
授業外における学修及び学生に期待すること							
博物館学はあらゆる学問分野からの視座で論文に取り組むことができる。未踏の分野を研究することで、独自の学問領域を見出すことが肝要である。日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の活動を学ぶことが望ましい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	卒業論文の執筆に関する指導。	予習:論文執筆 復習:論文の見直し
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習:前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習:本学期的目標設定の清書
3	卒業論文の個別指導①	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
4	卒業論文の個別指導②	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
5	卒業論文の個別指導③	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
6	卒業論文の個別指導④	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
7	卒業論文の個別指導⑤	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
8	卒業論文の個別指導⑥	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
9	卒業論文の個別指導⑦	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
10	卒業論文の個別指導⑧	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
11	卒業論文の個別指導⑨	論文執筆。	予習:論文執筆 復習:見直し
12	卒業論文の個別指導⑩	図・表・写真を挿入して体裁を整える。	予習:図・表の作成 復習:見直し
13	卒業研究発表(1)	卒業研究発表会(1)	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
14	卒業研究発表(2)	卒業研究発表会(2)	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
15	大学生生活の省察	入学からこれまでの大学生生活の省察を行う。	予習:ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習:ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3年次の「専門演習Ⅱ」において、決定した卒業論文のテーマについて、各自がこれまで修得した専門的知識・技能を活かした上で、更に必要な情報の収集を行い、その完成を最終目標とする。また、完成する過程で、他のゼミ生たちとのコミュニケーションを通して、課題解決に向け協力し合う。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> Excel を用いた表計算および図表作成、Word を用いた文書作成により卒業論文を完成する。 卒業論文のテーマとして掲げた内容の背景について理解することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート プレゼン後のディスカッション 	20% 30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 文献を読み込み、内容を理解することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> プレゼン用レジュメ プレゼン後のディスカッション 	10% 20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションにおいて自分の意見を述べるができる。 				<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション プレゼン後のディスカッション 	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション (70%) については、卒業論文のテーマをその背景を含めて理解し、そしてその内容について自分の意見を述べられるか、参考文献の内容を理解できているかをその評価基準とする。プレゼン用レジュメ (10%) については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。課題レポート (20%) については、word や excel といったソフトを用いて卒業論文が書けているかをその評価基準とする。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、前期に決定した卒業論文の方法に従って休業期間中に行った調査や実験の結果に関する検討を行うことで、卒業論文の道筋を決定する。後半は、授業外で進めた卒業論文の進行状況をプレゼンテーション・ディスカッションにより確認した上で、今後の道筋を明確にしていく。最終的には卒業論文を完成させる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 指定図書：『Excel による健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門』大修館書店</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

「大学時代に何をしましたか?」という質問に対して「私は〇〇に関する卒業論文を書きました」と堂々と言えるような、また、社会に出て苦難に出会った時「あの苦しい卒業論文を完成できたのだから」と思い乗り越えられるような卒業論文を書くつもりできてほしい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	・データの入力方法について ・データ解析について	卒業論文のデータ入力・データ解析（基礎統計、統計解析）
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	結果検討（1）	調査および実験結果の検討（1）	結果の検討
4	結果検討（2）	調査および実験結果の検討（2）	結果の検討
5	結果検討（3）	調査および実験結果の検討（3）	卒業論文執筆（緒言）
6	研究発表（1）	卒業論文進行状況発表およびディスカッション（1）	卒業論文執筆（緒言）
7	研究発表（2）	卒業論文進行状況発表およびディスカッション（2）	卒業論文執筆（方法）
8	研究発表（3）	卒業論文進行状況発表およびディスカッション（3）	卒業論文執筆（結果）
9	研究発表（4）	卒業論文進行状況発表およびディスカッション（4）	卒業論文執筆（考察）
10	研究発表（5）	卒業論文進行状況発表およびディスカッション（5）	卒業論文執筆（考察）
11	研究発表（6）	卒業論文進行状況発表およびディスカッション（6）	要旨の作成
12	研究発表（7）	卒業論文進行状況発表およびディスカッション（7）	要旨の作成（訂正）
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生生活の省察	入学からこれまでの大学生生活の省察を行う	予習：ホスピタリティループブック（自己）記入 復習：ホスピタリティループブック（最終）記入

授業科目 (CF402)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究への取り組みについては、専門演習Ⅱで研究してきたテーマに沿って、更に研究を進める。その研究成果について、ゼミの中で発表し議論を深め、卒業論文を作成することができる。(論文のテーマとその問題設定について説明できる。)							④⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	卒業論文に取り組むために、其々のテーマについて研究し問題提起できる。				・プレゼンテーション ・課題レポート	30% 30%	
情報収集、分析力	論文のテーマに合った基本資料を集め、問題意識に基づき情報を整理することができる。				・授業態度	20%	
コミュニケーション力	発表の際、発表者として又は聴講する側に立ち、自分の考えを述べることができる。				・ディスカッション	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについては 30%、課題レポートについては 30%とし、卒業論文の執筆に向けて、それぞれのテーマの問題について追及していくことができているかを評価する。課題レポートは採点し、返却することでフィードバックを行う。 ・授業態度は 20%とし、卒業論文に必要な資料収集や資料の活用具合を評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究成果を卒業論文としてまとめ、発表する。その過程で、研究内容についてゼミ生全員でグループディスカッションを行う。 ・卒業研究の作成にむけて個別指導を行う。 ・この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。 							
教科書・参考書							
教科書：石黒圭『よくわかる文章表現の技術』明治書院、2009 指定図書：石黒圭『よくわかる文章表現の技術』明治書院、2009							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究は、大学 4 年間の集大成である。それぞれの思いを卒業論文という形に残すために、最後まで踏ん張ってやり抜いてほしい。やり遂げた達成感は、社会人になって大きな壁にぶつかった貴方に、きっと勇気と自身を与えてくれるでしょう。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	卒業論文作成のスケジュールの見直しを行う	後期の演習の計画を再検討
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	論文指導（1）	論文のテーマと問題の設定について再度確認する	テーマの再確認をする。文献・資料とネット検索の分析
4	論文指導（2）	論文の全体像を書きだす（章立て）	本文の組み立て方の構成表を作成する。トピックスをグループ分け
5	論文指導（3）	卒業論文を執筆する	卒業論文に必要な資料収集及び執筆
6	論文指導（4）	卒業論文を執筆する	卒業論文に必要な資料収集及び執筆
7	論文指導（5）	卒業論文を執筆する	卒業論文に必要な資料収集及び執筆
8	論文指導（6）	卒業論文を執筆する	卒業論文に必要な資料収集及び執筆
9	論文指導（7）	論文の構成を確認する	全体の内容確認作業
10	論文指導（8）	卒業論文の体裁を確認し、最終的な確認を行う	注・引用・文献表を作成
11	論文指導（9）	卒業論文の結論・引用文献の確認を行う	卒論の最終確認作業
12	論文発表指導	卒業研究発表準備（パワーポイント・スライド作成・要約まとめる）	パワーポイント・スライド作成・要約準備
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生生活の省察	入学からこれまでの大学生生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック（自己）記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック（最終）記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CA 111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
3 年次までの学習を基に設定したテーマについて研究を行い、卒業論文を完成させる。観光学、日本の国際関係史、ならびに観光対象についての理解を、読み手に分かりやすく整理し、説明できるようになる。プレゼンテーションのスキルを身に付ける。協働と異文化尊重を実践する。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象に関わる歴史とその現状を理解し、説明できる。				期末レポート	40%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、研究対象に関する情報を収集する。				期末レポート	30%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習参加状況	10% 10%	
協働・課題解決力	卒業研究の過程で生じた自他の課題の解決に、協働して取り組むことができる。				演習への参加状況	5%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
演習への参加状況、ゼミ内での発表、ならびに期末レポートの3つの角度から評価する。							
授 業 の 概 要							
フィードバックは次の時点で行う。ゼミ内発表会：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない。各回の演習に先立ち、必要な資料を配付するか、学生各自での収集を指示する。 参考書：小笠原喜康. 2002. 大学生のためのレポート・論文術. 講談社現代新書. 指定図書：白石隆. 2000. 海の帝国. 中公新書.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 無断欠席をしないこと。分からないことや困ったことが出てきたら、すぐに担当教員に相談すること。 2. 体力をつけること。分かりやすい文章を書くためには体力が必要。 3. データのバックアップを2つ以上の媒体に定期的にとること。プリンターのインクの予備を用意しておくこと。 4. 初志貫徹。「書き続けるのがつらい」と感じたら、ゴールに近づいてきた証拠。あと一息。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) 毎回のレポートを書くうちに出てきた疑問点をまとめ、質問できるようにしておくこと。以下同じ。
2	省察	3年前期の学修成果を省察し、今期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 参考文献と序論の準備
3	原稿の推敲と指導 1	参考文献、序論	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
4	原稿の推敲と指導 2	本論 (1)	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
5	原稿の推敲と指導 3	本論 (2)	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
6	原稿の推敲と指導 4	本論 (3) ・ 2・3年生が行う、大学祭学術発表に出席する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
7	原稿の推敲と指導 5	本論 (4)	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
8	原稿の推敲と指導 6	結論 (5)	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
9	原稿の推敲と指導 7	序論 (もう一度)	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
10	原稿の推敲と指導 8	原稿全体を見直す (1)	(復習) 原稿の最終確認
11	原稿の推敲と指導 9	原稿全体を見直す (2)	(復習) 原稿の最終確認
12	卒業論文提出	①論文を提出する ②卒論要旨の書き方の説明	(復習) 卒論要旨を作成する。
13	卒論要旨の推敲	卒論要旨原稿を修正する。	(復習) 指示に従って要旨を書きなおす。
14	卒論要旨の提出	①卒論要旨を最終確認のうえ、提出する。 ②ゼミ内発表会について指示	(復習) ゼミ内発表会の準備
15	ゼミ内発表会	①自分の卒論の要点を報告する。 ②質疑応答を通じ、自分の研究のすばらしさを確認する。	

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の高い内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね解くことができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 480 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	40%	
情報収集、分析力	社会性の高い問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	35%	
コミュニケーション力	(1) 社会性の高い内容のコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	5%	
	(2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。 							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『大学生のためのレポート・論文術』小笠原善康(著)、講談社現代新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文	実際の論文を読みディスカッション、TOEIC問題	予習：TOEIC 1-10について調べる、課題論文を読む 復習：英文 1-10 音読筆写
4	彼岸	TOEIC問題、彼岸に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	月見	TOEIC問題、月見に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	卒業研究について	中間発表報告会、ディスカッション	予習：中間報告会準備、 復習：中間発表の振り返り、音読筆写
7	地元の祭り	TOEIC問題、地元の祭りに関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
8	神社	TOEIC問題、神社に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
9	仏壇	TOEIC問題、仏壇に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
10	冬至	TOEIC問題、冬至に関する表現、ディスカッション、卒業研究指導	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
11	すす払い	TOEIC問題、すす払いに関する表現、ディスカッション、卒業研究指導	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
12	小テスト、正月	TOEIC問題小テスト、正月に関する表現、ディスカッション	予習：小テストの準備、発表準備 復習：振り返り、音読筆写
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック (自己) 記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック (最終) 記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	安部 雅隆		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・企業の持つ特徴や課題を発見できる能力を養い、その企業がとるべき今後の戦略を立案する。 ・卒業後働く上で必要となる実践的な知識やビジネススキルを習得する。 ・卒業研究の完成を目指していく中で、論理的な文章を書く能力、自身の考えを論理的に説明できる能力を養う。 							①⑤ ⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	実社会で起こり得る企業内の問題・課題はいかにして表面化するか、そのプロセスが理解できる。				・受講者のプレゼン ・授業内の発言内容	40%	
情報収集、分析力	企業内の状況を分析することにより、その企業が抱える問題・課題を抽出することができる。				・受講者のプレゼン ・授業内の発言内容	30%	
コミュニケーション力	収集した情報を簡潔にまとめ、プレゼンテーション用ソフトを用いて人前で発表することができる。自身の考えを論理的に書くことができる。				・受講者のプレゼン ・授業内の発言内容	20%	
協働・課題解決力	実在する企業に内在する問題・課題を予め想定し、それを解決するためにいかなるアプローチが必要かを提言できる。				・受講者のプレゼン ・授業内の発言内容	10%	
多様性理解力							
出席							
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に担当者を決定し、自身が作成する卒業研究の進捗状況を報告するプレゼンテーションを課す。本プレゼンテーションは、理論的かつ独創的な思考を内包しているかを評価する。加えて時間内で簡潔にまとめられているかについても評価の対象とする。 ・各プレゼンテーション終了後はゼミ生全員でディスカッションを行い、発表内容や発表方法について、詳細なフィードバックを実施する。ディスカッションへの参加度合いは評価の対象となる。 							
授業の概要							
<p>以下の2点を中心に据えながら、本演習を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期に作成したケースを基に、卒業研究の作成を行う。ケース作成時同様に卒業研究の進捗状況や今後の作成計画について担当者を決め、プレゼンテーションを行う。 2. 卒業研究の進捗状況や完成後の成果発表については、専門演習Ⅰおよび専門演習Ⅱの履修者を交えてプレゼンテーションを実施する時間を設ける。 <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書；特に指定しない。</p> <p>参考書；「1からの経営学」（中央経済社）「ゼミナール経営学入門」（日本経済新聞社）</p> <p>指定図書；「入門経営学」（新世社）</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

ケース作成および卒業研究の作成については、授業外での調査・研究が非常に重要になる。従って、授業外でも研究・調査にしっかりと時間を確保することを厳守してほしい。そのうえで、分析方法や論文の構成について質問があれば気軽に尋ねてほしい。

また受講者は毎回必ず参加し、議論に参加すること。無断欠席は評価の上で大幅な減点となるので注意するように。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習を円滑に運営していく上でのルール等の説明を行う。	
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察の行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習: 前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習: 本学期的目標設定の清書
3	卒業研究執筆について	前期に作成したケースと卒業研究の関連性について説明・議論する。	自身が前期に設定したThesisを復習する。
4	卒業研究作成計画策定 (1)	この時点で収集した情報やデータおよび進捗状況を勘案し、今後の作成計画を策定する。	卒業研究の作成状況を各々まとめておく。
5	卒業研究作成計画策定 (2)	この時点で収集した情報やデータおよび進捗状況を勘案し、今後の作成計画を策定する。	卒業研究の作成状況を各々まとめておく。
6	卒業研究の章立て (1)	卒業研究の章立てについて個別に指導・議論する。	卒業研究の構成を各々が考えておく。
7	卒業研究の章立て (2)	卒業研究の章立てについて個別に指導・議論する。	卒業研究の構成を各々が考えておく。
8	卒業研究の進捗状況発表 (1)	担当者を決定し、卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
9	卒業研究の進捗状況発表 (2)	担当者を決定し、卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
10	卒業研究の進捗状況発表 (3)	担当者を決定し、卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
11	卒業研究の進捗状況発表 (4)	担当者を決定し、卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
12	卒業研究の進捗状況発表 (5)	担当者を決定し、卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	担当者はプレゼン準備。
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予習: 卒業研究発表準備 復習: 発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予習: 卒業研究発表準備 復習: 発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う。	予習: ホスピタリティ・ルーブリック (自己) 記入 復習: ホスピタリティ・ルーブリック (最終) 記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、卒業研究の作成を通して、各自が設定したテーマに関わる専門知識を習得すると共に、関連する情報や資料、文献を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら社会人として身につけておくべき基礎力の養成を図る。							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	テーマに関わる基礎的事項を十分理解し、他者にわかりやすく説明することができる。 テーマに関わる専門的知識を習得し、そのテーマについて今何が問題となっているかを説明することができる。				卒業論文 発表と討議		30 % 10 %
情報収集、分析力	テーマに関する情報・資料・文献の収集方法について理解し、適切な方法を用いて必要な情報を調査することができる。 集めた情報・資料・文献などを的確に読み取り、客観的な考察を加えることができる。				卒業論文 発表と討議		20 % 10 %
コミュニケーション力	卒業研究としてふさわしい体裁・構成を理解し、論理的な文章によって論文を書くことができる。 特定のテーマに関して他の受講者と討議することができる(傾聴・質問・回答)。				卒業論文 発表と討議		10 % 10 %
協働・課題解決力	自身が設定したテーマの社会的意義を認識し、社会的課題を解決するための具体的な方策を考えることができる。				卒業論文		10 %
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、卒業論文を 70%、発表と討議を 30%の比率で評価する。卒業論文については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席(特に課題発表の担当となっている日の欠席)は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業は卒業研究の作成を目標として、各自が自分のテーマに基づき論文を完成させていくと共に、受講者全員でお互いの論文を検討していく。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
教科書・参考書：特に指定しない。テーマに関する文献は適宜授業内で紹介する。 指定図書：白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方(第2版)』ミネルヴァ書房(2013)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究は、大学での4年間の学びを集大成する「作品」である。「作品」を生み出す過程は苦しいが、完成まで各自積極的に資料収集・調査・発表・執筆に取り組んでもらいたい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	論文の進捗状況と執筆スケジュールを確認する。	復) 論文執筆作業の継続
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論文の執筆①	論文の題目と章立てを確定する。	予) 論文題目の確定 目次の作成 復) 指摘事項の確認
4	論文の執筆②	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予) 第1章の発表準備 復) 第1章の修正作業
5	論文の執筆③	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予) 第2章の発表準備 復) 第2章の修正作業
6	論文の執筆④	卒業研究の様式、体裁などを確認し、修正を行なう。	予) 様式、体裁等の確認 復) 様式、体裁等の修正
7	論文の執筆⑤	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予) 第3章以降の発表準備 復) 第3章以降の修正作業
8	論文の執筆⑥	担当者が論文の一部を発表し受講者全員で検討する。	予) 第3章以降の発表準備 復) 第3章以降の修正作業
9	論文の執筆⑦	卒業研究の草稿を完成させる。	予) 草稿の完成 復) 草稿の修正
10	論文の執筆⑧	卒業研究の様式、体裁などを確認し、修正を行なう。	予) 表現・形式の確認 復) 表現・形式の修正
11	論文の執筆⑨	卒業研究の最終確認を行なう。	予) 論文の最終確認 復) 論文の提出
12	要旨の執筆	卒業研究の内容を振り返り、要旨を作成する。	予) 要旨作成 復) 要旨作成作業の継続
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予) 卒業研究発表準備 復) 発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予) 卒業研究発表準備 復) 発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予) ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復) ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
観光の情報発信の手段としてFM放送と映像作成の実践をおこない、番組放送や映像作品を作成することでメディアリテラシーを学ぶ。佐世保市のコミュニティFMで毎週日曜日に放送される60分の生番組を担当している。学生だけでなく市民に自ら取材して番組を制作、出演して放送活動を実践する。市民参加型のまちづくりプロジェクトを企画し、中心市街地の活性化を図るためのイベントの企画運営の実践や、地域の観光情報を情報メディアで発信する。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	学生の視点で新しい活動やテーマを考え、イベントや番組の作成・出演において、自分の意思を正しく伝え、さまざまな企画ができる				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	40%	
情報収集、分析力	プレゼンテーション力はもちろん、情報機器の操作やネット関連の技術修得、情報コンテンツの作成や他者への提案ができる				企画・番組内容	30%	
コミュニケーション力	学年を超えて意思疎通を図り、チームにおけるコミュニケーション能力を身につけて、常に相手に思いやり、信頼関係を確立する。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	地域情報の発信のための文献検索や調査により地域の歴史を知り、さまざまな視点から物事を考察できる。				地域活性化の企画内容	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加度と情報コンテンツの理解と開発内容 ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、グループディスカッションでの内容 放送活動を通じてまちづくりに関する活動への参加と報告書 地域における調査やイベントの企画・実施等フィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。 企画やディスカッションは自分の情報機器でおこなう。 まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：20歳の自分に受けさせたい文章講義 講談社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この専門演習で専門知識や社会人基礎力を身につけ、地域の活性化に視点をおいて、地域に密着した活性化に役立つ情報、多角的な地域情報を集約し発信する情報発信基地としての役割を重視している。学生が見たまちの魅力を発信するとともに、市民とのコミュニケーションを促進することを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	テーマと到達目標	演習のテーマおよび授業における到達目標の決定	事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解すること
2	ポートフォリオ・SNS 登録と演習・面談	番組ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	番組準備・番組ポートフォリオ確認すること
3	スタジオ・市街地視察	スタジオなど活動現場の視察およびまちづくりに関する活動	視察場所の資料を確認すること
4	イベント開催	地域活性化イベントを開催 (情報コンテンツの開発によるネットイベントなど)	イベント資料を確認すること
5	番組・映像作成	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定すること
6	まちづくりプロジェクト開始	イベントの起案と設計 (情報コンテンツの開発を含む)	各地域の過去のイベント資料を確認すること
7	まちづくりプロジェクト発表	地域活性化イベントの広報活動開始。	SNS等の確認と過去の資料を再確認すること
8	イベント参加	地域イベント活動への参加	イベント資料を確認すること
9	番組・映像作成	コンテンツ作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組ポートフォリオ確認すること
10	まちづくりプロジェクト	情報コンテンツの開発への参加、まちづくりに関する活動	イベントに参加をする
11	まちづくりプロジェクト	地域活性化へのイベントを計画、放送への参加 (情報コンテンツの開発)	情報コンテンツの完成を目指す
12	まちづくりプロジェクト	地域活性化へのイベントを計画、放送への参加 (情報コンテンツの開発)	情報コンテンツの完成を目指す
13	放送用情報コンテンツ作成	情報コンテンツ作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	ポートフォリオ確認すること
14	情報コンテンツ制作	情報コンテンツの開発への参加、まちづくりに関する活動	コンピュータを使い制作をおこなう。
15	まちづくりプロジェクト	成果を活用した地域活性化へのイベントを実行 (情報コンテンツの開発によるネットイベントなど)	イベント資料を確認し把握しておくこと

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	小島 大輔		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある事象の専門的知識を理解する。 ・興味関心のある事象に関するさまざまな問題点を考え、判断する論理的な考え方を身につける。 ・異なる考え方を理解し討議することができる。 							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究の目的、研究方法、結果および考察を類別し、自らの考えを述べるができる。				課題レポート	40%	
情報収集、分析力	調査予定の事項および調査した内容を説明できる。				受講者の発表	35%	
コミュニケーション力	調査の進め方、論文の作成計画、論文の内容について討議できる。				授業への参加度	25%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度は、受講者の発表におけるディスカッションへの参加度合を評価する。 ・課題レポートについては、様式の正しさ、論文構成の適切さ、意見の有無およびその理由の妥当性などから評価する。 ・受講者の発表は、調査事項の適切さおよび調査した内容の具体性などから評価する。 ・発表内容に対しては、発表時に受講者でディスカッションされ、また担当教員からコメントが与えられる。 							
授業の概要							
<p>本演習では、まず調査報告の方法を学び、実際に調査報告をする。次に、論文の作成計画について学び、自らの作成計画を発表する。続いて、論文のまとめ方を学び、論文作成計画にしたがって論文を作成する。そして、作成した論文の経過報告を行う。各発表の際にはディスカッションを行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。</p> <p>指定図書：戸田山和久（2012）：『論文の教室－レポートから卒論まで 新版』NHK 出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>各プレゼンテーションは、成果の確認のみでなく、調査および論文執筆の進捗状況を確認するものでもある。担当の回において一定の成果を発表できるよう、研究の「リズム」を作り上げること。</p> <p>※本演習選択者は、いずれのコースも履修してよい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	専門演習のプロセスを理解し、目標を共有する。	復習：シラバスの再読
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	調査報告1 —調査報告の方法—	調査結果の表現方法および調査報告の方法を学ぶ。	復習：調査報告用レジメの作成
4	調査報告2 —調査結果の報告1—	調査結果の報告を行い、ディスカッションをする。	予習：調査報告用レジメの作成
5	調査報告3 —調査結果の報告2—	調査結果の報告を行い、ディスカッションをする。	予習：調査報告用レジメの作成
6	調査報告4 —調査結果の報告3—	調査結果の報告を行い、ディスカッションをする。	予習：調査報告用レジメの作成
7	論文要旨の作成1 —論文要旨の作成方法—	論文要旨の作成方法を学ぶ。	復習：論文要旨の作成
8	論文要旨の作成2 —論文要旨の作成—	論文要旨を作成する。	復習：論文要旨の修正
9	論文作成の成果報告1 —論文成果報告の方法—	論文作成の成果報告の方法を学ぶ。	予習：論文要旨の内容確認
10	論文作成の成果報告2 —論文成果の報告1—	論文作成の成果報告を行い、ディスカッションをする。	予習：論文作成の経過報告用レジメの作成
11	論文作成の成果報告3 —調査結果の報告2—	論文作成の成果報告を行い、ディスカッションをする。	予習：論文作成の経過報告用レジメの作成
12	論文作成の成果報告4 —調査結果の報告3—	論文作成の成果報告を行い、ディスカッションをする。	予習：論文作成の経過報告用レジメの作成
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ループリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ループリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：「研究テーマを見つけ、オリジナルの調査報告をしよう」 専門演習ⅠやⅡで学んできた理論や先行研究に基づき、各自が研究テーマを見つけ、それを解決させる研究手法を探し出す。そして、その研究を実践し、研究報告書をまとめ、報告する。これら一連の研究を通して、適切な手法で調査に基づいた結論が導き出せるようになる。 これに付随して業界研究・企業研究の手法を学び、関心のある業界や企業について調べ、報告し、情報を共有する。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	専門書や先行研究を読み、理解して、これらの成果を、各自の研究課題を解決するための分析手法として利用（もしくは応用）することができる。				発表(プレゼン)	50%	
情報収集、分析力	研究課題に取り組み、客観的に説得的に論証して、結論を導くことができる。				発表(プレゼン)	35%	
コミュニケーション力	調査の成果を、読み手や聞き手に分かりやすく伝えることができる。積極的に議論に参加できる。				発表(プレゼン) 討論	5% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
事前連絡のある欠席や遅刻は減点としないが、無断欠席や無断遅刻は、社会的観点から減点とする。 発表(プレゼン)のためのレジメを提出する際は、指定する期日までにポートフォリオで提出する。期日を守らない場合は減点とする。討論では、他の学生の発表を聞く態度が適切か、他の学生の発表に対する質疑や意見が、積極的に行われているかが評価される。発表(プレゼン)および討論について、教員がコメントしフィードバックする。							
授業の概要							
1. 事例研究課題および研究手法の導出 関心のある国や地域、もしくは、関心のあるテーマを探し、研究手法を決定する。 2. 事例研究の実践、事例研究報告書の作成、報告、討論 3. 業界研究・企業研究、情報の共有 研究課題に対する作業は、基本的に授業外における学習で準備し、授業においては、授業外において得られた学習・研究の成果(経過)報告と意見交換に重点が置かれる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『観光の経済学』 学文社 指定図書：『観光の経済学』 学文社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
積極的かつ自主的に研究していくことを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい。観光マネジメントコース							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	研究テーマを考える。
2	前学期の省察と 本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	研究(1)研究テーマの設定	共同研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。
4	研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	先行研究を解題しまとめる。
5	研究(3)調査内容・調査方法の決定	研究テーマに基づき、調査内容と調査方法を決定する。	調査内容や方法について案を作成する。
6	研究(4)調査	調査計画を報告する。	調査計画を検討する。
7	研究(5)調査	調査経過を報告する。	調査結果を整理する。
8	研究(6) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
9	研究(7)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
10	研究(8)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
11	研究(9)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
12	研究(10)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生生活の省察	入学からこれまでの大学生生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	谷口 佳菜子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
本演習では、論文の執筆を通じて、論理的に考察できるようになること、また、論文の作成過程において、進捗状況を発表する際、他の受講者にもわかりやすく説明できるようになることを目指す。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分の研究の特徴について論理的に説明することができる。				発表資料	50%	
情報収集、分析力	研究テーマに関する情報を収集し、その内容について分析することができる。				発表資料 発表	15% 15%	
コミュニケーション力	研究テーマに関する専門用語を理解し、それを用いて論文の内容を説明することができる。				発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の発表や発表資料の形式については、授業内で指示する。 ※発表日に無断欠席した場合は、減点対象となる。 							
授業の概要							
<p>本演習では、各自設定した研究テーマについて調査し、調査結果の分析、考察を行い、その内容についての発表と論文の作成を行う。</p> <p>授業の前半では、論文とは何か、論文の構成や体裁、資料収集の方法等について学び、後半では各自の研究についてその進捗状況を発表してもらい、発表に対する議論を全員で行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない。</p> <p>参考書：小池和男・洞口治夫編(2006)『経営学のフィールド・リサーチ「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社。その他、必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>指定図書：梶尾真・仁平尊明・加藤政洋編(2007)『地域調査ことばはじめ-あるく・みる・かく-』ナカニシヤ出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・各自が責任を持ち、積極的に研究テーマに取り組むことを期待する。 ・パソコンの利用環境を整えておくこと。(ノートパソコンが望ましい) 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	ゼミの進め方やテーマについてオリエンテーションを行う	復習：執筆スケジュールの確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文について (1)	各自が設定したテーマと仮説について確認する。研究計画書を作成する。	復習：研究計画書の作成
4	論文について (2)	論文とは何かについて学ぶ。	予習：配布資料の確認
5	論文について (3)	資料収集の方法を学び、各自、テーマに沿った資料を収集し、分析する。	予習：資料収集 復習：収集した資料内容の検討し、まとめる
6	論文について (4)	論文の構成について学ぶ。各自、論文の題目を確認し、論文の構成、調査方法を考える。	復習：論文の題目と構成、調査方法をまとめる
7	論文について (5)	論文の体裁（余白、文字の大きさ等の設定、参考文献の書き方、引用の仕方など）、論文における文章の書き方、図や表の入れ方について学ぶ。	予習：論文の体裁を整える 復習：配布資料の確認
8	論文の執筆・発表 (1)	先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表資料の作成
9	論文の執筆・発表 (2)	先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表資料の作成
10	論文の執筆・発表 (3)	論文の目次を作成する。論文の概要と研究の進捗状況について発表し、議論を行う。	予習：目次の作成 復習：論文の執筆
11	論文の執筆・発表 (4)	論文の発表と議論を行う。	予習：論文の執筆、発表資料の作成 復習：論文の修正
12	論文の執筆・発表 (5)	論文の仕上がりについて最終確認を行う。論文の要旨を作成する。	予習：仕上がりの確認をして推敲する 復習：要旨の作成
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	原 哲弘		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで実施した【観光まちづくり】を基本的な研究資料と調査・分析手法として、各自の卒業論文の作成を目標とする。またプレゼンテーション力を身につけ発表会を実施します。さらに【社会人基礎力】に必要な知識やマナーを修得します。</p>							⑥、⑦、⑩、 ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会人として必要な幅広い専門知識を有し、就職活動など実践することができます。				・質疑応答	10%	
情報収集、分析力	自らがテーマとした卒業研究の取り組みの中で、アンケート等により情報収集を行い、分析・判断できるようになります。				・課題レポート	20%	
コミュニケーション力	社会人として必要な教養的知識を有し、インタビューや学外発表の機会があり、そこで就職活動時に必要なコミュニケーション力が身に付きます。				・学外発表会	20%	
協働・課題解決力	卒業論文の発表会や市民との協議により課題を理解し、表現力を身につけることができます。				・学内発表会	30%	
多様性理解力	観光に関わる専門的な知識を有し、観光まちづくりに関する事柄について説明することができます。さらに深く考える習慣を身につけることができます。				・試験	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の発表や課題レポートを5回目、10回目に実施する内容で評価します。							
授業の概要							
<p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。建築学や都市計画学の実務経験から、「観光まちづくり」として環境デザイン論、地域振興論等で学んだことを指導します。また卒業論文に関する指導を行いながら、各自の個性に合わせ社会人となった時に役立つ事柄を学びます。さらに個別ディスカッションを行い将来設計についても議論します。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書 : 各自のテーマに併せて、随時プリントを配布します。</p> <p>参考書 : 必要な図書は、随時指定します。なお書籍「犬と鬼」(著者アレックス・カー)は、必ず読んでください。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>学外で、ヒアリングなど市民とのコミュニケーション能力を身に付け、社会人基礎力の強化を図ります。また卒業研究のテーマにそって探求する楽しさを味わい達成感と満足感を体験します。最後に、完成した卒業論文を在学生に対して発表会を開催し、後輩に対する学業姿勢をアピールします。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	発表会	自己紹介を含めて、前学期に自らがまとめた内容をパワーポイントで発表会を開催します。	発表の準備
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定をする。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	地域資源を活かした計画①	各自テーマに沿って研究論文の作成	論文の作成
4	地域資源を活かした計画②	各自テーマに沿って研究論文の作成	意見交換の資料作成
5	“市民”との協議①	各自テーマに沿って“市民”との意見との交換 課題レポート①回目	事前に問題点整理
6	卒業研究調査作業①	各自テーマに沿って、調査、作業	論文の作成
7	卒業研究調査作業②	各自テーマに沿って、調査、作業	論文の作成
8	卒業研究執筆作業①	各自テーマに沿った企画書の修正と実施レポートの作成（写真整理など）	論文の編集
9	卒業研究執筆作業②	各自テーマに沿った企画書の修正と実施レポートの作成（編集作業など）	論文の編集
10	卒業研究執筆作業③	各自テーマに沿って、結論の作成完了 課題レポート②回目	卒論提出の準備
11	要旨の完成	卒業論文要旨の作成	要旨の準備
12	発表会の準備①	パワーポイントなどによる発表の準備	発表会の準備
13	卒業研究発表会（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表会（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック（自己）記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック（最終）記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	三浦 知子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、各自が研究テーマを設定し、仮説を立て、調査、分析、考察を行う一連の研究の姿勢を身につけること、論文を計画的に作成すること、研究内容について受講者同士が互いに議論できるようになることを目標とする。							①②⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・研究テーマに関する専門用語を理解し、それを用いて論文の内容を説明することができる。				・成果物、発表内容から総合的に評価する	40%	
情報収集、分析力	・研究テーマに関する情報を収集し、その内容について分析することができる。				・受講者の発表	30%	
コミュニケーション力	・文献や資料、調査から得たデータ等を用いて、具体的でわかりやすい発表をすることができる。				・受講者の発表	20%	
協働・課題解決力	・計画的に論文の執筆に取り組むことができる				・成果物、発表内容から総合的に評価する	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度・参加については、発表内容、議論への参加度合を評価する。 ・受講者の発表については、授業内で指示する。 							
授業の概要							
<p>本演習では、各自設定した研究テーマについて調査し、調査結果の分析、考察を行い、内容についての発表と論文の作成を行う。授業の前半では、論文とは何か、論文の構成や体裁、資料収集の方法等について学び、後半では各自の研究について発表する。発表に対する議論を全員で行う。それらの要点についてフィードバックを行う。論文提出後は要約を作成の上、研究内容を発表する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない</p> <p>参考書：必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>指定図書：『論文の書き方』、著者：澤田昭夫、講談社学術文庫</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・研究とは何かを正しく理解し、意義ある研究テーマ設定をすることを期待します。 ・各自が責任を持ち、積極的に研究テーマに取り組むことを期待します。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	ゼミの進め方についてオリエンテーションを行う。	執筆スケジュールの確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文について (2)	各自が設定したテーマと仮説について確認する。前期の作業を受けて、研究計画について指導教員と相談しながら省察を行う。	予習：目標設定の確認 復習：研究計画書の再検討、調査報告資料の作成
4	論文について (3)	これまでの作業を元に、改めて論文の構成について発表と議論を行う。論文題目について再考する。	予習：論文構成の確認 復習：論文の題目と構成、調査方法をまとめる
5	論文の執筆・発表 (1)	論文の目次を作成する。論文の概要と研究の進捗状況について発表し、議論を行う。	予習：目次の作成 復習：論文の執筆
6	論文の執筆・発表 (2)	論文の構成と執筆計画について検討する。論文の概要と研究の進捗状況について発表し、議論を行う。	予習：目次の作成 復習：論文の執筆
7	論文の執筆・発表 (3)	論文の発表と議論を行う。	予習：論文の執筆 復習：発表資料の作成
8	論文の執筆・発表 (4)	論文の発表と議論を行う。	予習：論文の執筆 復習：発表資料の作成
9	論文の執筆・発表 (5)	論文の発表と議論を行う。	予習：論文の執筆 復習：発表資料の作成
10	論文の執筆・発表 (6)	論文の発表と議論を行う。	予習：論文の執筆 復習：発表資料の作成
11	論文の執筆・発表 (7)	論文の仕上がりについて最終確認を行う。	予習：執筆要項の確認 復習：論文内容の確認と推敲
12	論文の執筆・発表 (8)	発表用のプレゼンテーション資料を作成する。論文の要旨を作成する。	予習：要旨の作成 復習：論文内容の確認と発表資料の確認
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生生活の省察	入学からこれまでの大学生生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
本ゼミでは、「専門演習ⅠAB」、「専門演習ⅡAB」で学習してきた「総合型地域スポーツクラブ」の基礎知識や実践をもとに、先行研究や調査研究を実施することにより、科学的な視点で地域スポーツの現状を分析するノウハウを学ぶことをならいとしている。また、卒業論文作成へ向けた準備を行い、論文計画書を作成することができる。							⑤、⑥、⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・企画書、発表資料の作成	20%	
情報収集、分析力						%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、地域スポーツの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成 ・全体討議	30% 20% 30%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。							
授 業 の 概 要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『地域を変えた 総合型地域スポーツクラブ』山口 泰雄 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツは誰のためのものか』杉山 茂 慶應義塾大学出版会							
授業外における学修及び学生に期待すること							
各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向いて行ったボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい							

スポーツツーリズム、観光マネジメント、グローバルツーリズム

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	後期の導入	後期の具体的事例の研究についてオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの育成と自立	スポーツ文化の可能性について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの育成と自立	地域スポーツクラブの阻害要因と促進要因	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
4	大学と総合型地域スポーツクラブ	大学と連携した総合型地域スポーツクラブを調査する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
5	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 町と一体となったクラブ運営	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
6	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 学校の施設を活用し教員とも協力してイベント開催	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
7	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 新旧住民の交流を促進するクラブ活動	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
8	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 多様な表彰制度と活動記録手帳でクラブ運営を活性化	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
9	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 幼児のリズム遊びから高齢者のリハビリまで	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
10	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 若きリーダーが活躍し、障がい者のプログラムも展開	先行文献を調べ、卒業論文を作成する。
11	卒業論文作成①	卒業論文の第1校を提出する。	先行文献を調べ、卒業論文を作成する。
12	卒業論文作成②	卒業論文の中間発表会を実施する。	先行文献を調べ、卒業論文を作成する。
13	卒業論文作成③	卒業論文の第2校を提出する。	先行文献を調べ、卒業論文を作成する。
14	卒業論文作成④	卒業論文の最終版を提出する。	先行文献を調べ、卒業論文を作成する。
15	卒業研究発表会練習	卒業研究の発表会を練習する。	卒業研究の発表を準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	内田 智子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
この演習では、専門演習Ⅰ・Ⅱで身につけた知識、方法を使って、卒業論文作成を行う。専門演習ⅢAで設定したテーマに基づき、オリジナリティーのある論文を作成することを目標とする。							⑤⑩⑫
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	調査結果をもとに、オリジナリティーのある論文を執筆できる				論文	50%	
情報収集、 分析力	論文執筆に必要な文献を読み、分析できる。				論文	35%	
コミュニケーション力	他人の発表に対して意見を述べることができる。				討論	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文で85%、発表後の討論への参加度で15%を評価する。論文に関しては、論理性、オリジナリティー、調査資料の扱い方等で評価する。毎時間個別指導を行う。							
授業の概要							
専門演習ⅢAで設定したテーマに基づき、実際に論文を書き始め、完成させるための授業である。発表、討論、個別指導を繰り返すことで、よりよい論文を作り上げていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：授業中に適宜紹介する。 指定図書：高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育1』アスク、2004							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、大学4年間の学習の集大成として、卒業論文を作成することを目的とするゼミである。テーマを自ら見つけ出し、それについて調査、分析、研究を行い、授業中に発表およびレポート作成する中で、最終的に卒業論文を完成させる。多くの資料を読む中で、オリジナリティーのある論文を作り上げるよう努力してほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	授業の進め方について説明する。 また専門演習ⅢAを踏まえ、今後必要なことを考える。	予習:論文の進捗状況を確認 復習:後期の課題を設定
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標設定の清書
3	個別指導 1	研究背景および章立ての確認。修正点の確認。	予習:章立ての確認 復習:章立ての修正
4	個別指導 2	本論の執筆	予習:本論を書き始める 復習:本論の修正
5	個別指導 3	本論の執筆	予習:本論の執筆 復習:本論の修正
6	個別指導 4	本論の執筆	予習:本論の執筆 復習:本論の修正
7	意見交換 1	現状および今後の課題の発表。学生同士で意見交換を行う。	予習:発表準備 復習:コメントシート作成
8	意見交換 2	現状および今後の課題の発表。学生同士で意見交換を行う。	予習:発表準備 復習:コメントシート作成
9	個別指導 5	本論の執筆	予習:本論の執筆 復習:本論の修正
10	個別指導 6	本論の執筆	予習:本論の執筆 復習:本論の修正
11	個別指導 7	結論の執筆	予習:結論の執筆 復習:結論の修正
12	個別指導 8	卒業論文の要旨作成	予習:要旨作成 復習:要旨の修正
13	卒業研究発表(1)	卒業研究発表会(1)	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
14	卒業研究発表(2)	卒業研究発表会(2)	予習:卒業研究発表準備 復習:発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う。	予習:ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習:ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIB (CF 402)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	35%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	15%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、3本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の85%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心をもち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明 1	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	東地中海文明（2）	エーゲ海文明 2	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス 2 世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル 3 世、サルゴン 2 世、エサルハドン、アッシュールバニバルについて調べる
10	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
11	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
12	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック(最終)記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	柴田 あづさ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、卒業論文作成をとおして、履修学生が日本語教育学に関わる内容に関し「学術的に価値のある発見を」し、「論理の積み重ねによって説得」(石黒 2012) ができるようになることを目指す。							①⑤⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育学に対する知識を深め、論文を完成することができる。				卒業論文の執筆	50%	
情報収集、分析力	データを分析し、その結果を論理的かつ視覚的に提示することができる。				データ分析・図表の作成	30%	
コミュニケーション力	他の履修学生の発表に対して意見を述べることができる。				ディスカッション	10%	
	先行研究や調査結果について論理的に発表することができる。				プレゼンテーション	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の執筆に関わる能力を 50%、図や表を用いて結果をまとめる能力を 30%、卒業研究発表会におけるコミュニケーション力を 20% で評価する。また、提出された卒業論文の原稿と、ディスカッション、プレゼンテーション等のフィードバックを授業で行う。							
授業の概要							
前期に進めた卒業論文の執筆を進める。その際、分析結果は、論理的な文章に加え、図や表も用いて視覚的に提示する。最後に論文の体裁を整え、これを完成させる。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本-この 1 冊できちんと書ける-』 日本実業出版社。 二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子 (2012) 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』 東京大学出版会。 指定図書：高見澤孟他 (2016) 『新はじめての日本語教育 1-日本語教育の基礎知識-相補改訂版』 ASK。 高見澤孟他 (2016) 『新はじめての日本語教育 2-日本語教授法入門-相補改訂版』 ASK。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文は大学時代の集大成である。自己の設定する課題に粘り強く向き合い、一生の宝となる「発見」をもってこれを完成させ、そして、忘れがたい達成感を得てほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	卒業論文の完成に向けた指導。	予習：自身の専門演習ⅢAの進捗状況を確認する。 復習：本学期の目標の清書
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書きをする。 復習：本学期の目標設定の清書をする。
3	卒業論文の個別指導①	論文を執筆する。	予習：論文を執筆する。 復習：執筆内容を検討する。
4	卒業論文の個別指導②	論文を執筆する。	予習：論文を執筆する。 復習：執筆内容を検討する。
5	卒業論文の個別指導③	論文を執筆する。	予習：論文を執筆する。 復習：執筆内容を検討する。
6	卒業論文の個別指導④	論文を執筆する。	予習：論文を執筆する。 復習：執筆内容を検討する。
7	卒業論文の個別指導⑤	論文を執筆する。	予習：論文を執筆する。 復習：執筆内容を検討する。
8	卒業論文の個別指導⑥	論文を執筆する。	予習：論文を執筆する。 復習：執筆内容を検討する。
9	卒業論文の個別指導⑦	論文を執筆する。	予習：論文を執筆する。 復習：執筆内容を検討する。
10	卒業論文の個別指導⑧	論文の校正を行う。	予習：論文を書き終える。 復習：論文を校正する。
11	卒業論文の個別指導⑨	論文の最終校正を行い、これを完成させる。	予習：論文の体裁を整える。 復習：論文を読む。
12	卒業論文の個別指導⑩	卒業研究発表会の準備	予習：PPTを作成する。 復習：PPTを修正する。
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会を振り返る。
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会を振り返る。
15	大学生生活の省察	入学からこれまでの大学生生活の省察を行う。	予習：ホスピタリティ・ルーブリック（自己）記入する。 復習：ホスピタリティ・ルーブリック（最終）記入する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course provides an opportunity for student plan, research, implement and report on a project with students from other countries. Students will further develop language and personal skills through writing assignments and reading for research.							4, 5, 7,12
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	Students will plan and complete a project with international students				Plan and report Implementation Written assignments		20% 10%
情報収集、 分析力	Students will be able to improve English by collecting information for research				Presentation		40%
コミュニケーション力	Students will be able to discuss current projects and assignment with other students				In-class engagement		10%
	Students will give a presentation on their research				Presentation		20%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 10% Project planning and implementation (Create a plan and reflection about a project): 20% Other assignments (Occasional written assignments): 10% Presentation (planning, presenting, feedback): 60%							
授業の概要							
Students discuss and research a project with international students. From this, they move on to preparing implementing it. The semester concludes with a research presentation and reflection. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書: None 参考書: J. W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書: Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> • Introduce the course and review the syllabus • Students learn about each other • What is research? Previous experience 	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> • <i>Rubric hyoka</i>, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays 	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> • Conference with seminar teacher about personal goals for the semester • Check <i>Rubric Hyoka</i> and 100 Book status 	Students meet with teacher about rubric
4	Field Trip 10/13	<ul style="list-style-type: none"> • Field trip to Hasami with international students (afternoon) 	Prepare for trip
5	October Project week 2	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on project and receive feedback 	Prepare status update
6	October Project week 3	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on project and receive feedback 	Prepare status update
7	November Project week 1	<ul style="list-style-type: none"> • Discussion about results of October project • Students present plan for November project 	Prepare status update and discussion
8	November Project week 2	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on project and receive feedback 	Prepare status update
9	November Project week 3	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on project and receive feedback 	Prepare status update
10	November Project week 4	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on project and receive feedback 	Prepare plan
11	Preparation for final presentation	<ul style="list-style-type: none"> • Students present plan for final presentation 	Prepare outline
12	Final presentation practice	<ul style="list-style-type: none"> • Students practice in groups • Discussion of results of November project 	Prepare draft
13	Final presentation final practice	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on project and receive feedback 	Prepare slideshow
14	Final seminar Presentation	<ul style="list-style-type: none"> • ER book discussion • Students present status update on project and receive feedback 	Prepare presentation
15	Review and final feedback	<ul style="list-style-type: none"> • Discussion of results of December project • Review key points of seminar 	Prepare peer feedback

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、調査、分析、考察、論文の執筆を計画的かつ主体的に取り組む。また、各自が作成した調査・実験結果に関するプレゼンテーション資料をもとにディスカッションを行い、卒業論文の完成を目指す。							①⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究テーマに関する専門用語を用いて、研究成果および研究の独自性を説明することができる。				プレゼンテーション資料	50%	
情報収集、分析力	研究テーマに関する参考文献を参考に調査・実験を行い、目的に沿った結果の分析を行うことができる。				プレゼンテーション資料	30%	
コミュニケーション力	研究方法や分析結果について自身の意見を発表し、ディスカッションに積極的に参加することができる。				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、専門演習ⅢAで作成した研究計画書に従って休暇期間中に行った調査や実験の結果に関する検討を行う。</p> <p>後半は、授業外で執筆した卒業論文の進捗状況を発表し、ディスカッションを行うことで、卒業論文の筋道を確認し、卒業論文を完成させる。卒業研究のフィードバックや相互チェックなどはポートフォリオを用いて行う。</p> <p>最終回に4年間の集大成として、パワーポイントを用いた卒業論文発表会を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。各自の研究テーマに沿った文献を熟読すること。</p> <p>参考書：心理学論文の書き方（松井，2006）</p> <p>指定図書：スポーツ心理学事典（スポーツ心理学会，2008）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。パソコンの利用環境を整え、各自が責任を持って計画的に卒業論文に取り組むこと。</p> <p>※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、発表担当日の決定	復習：スケジュールの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	データの分析（1）	データの入力方法および基礎統計	データの入力および管理
4	データの分析（2）	データの分析方法（t検定・分散分析）	データの分析
5	結果の検討（1）	調査・実験から得られた分析結果の検討	結果の検討、図・グラフ作成
6	結果の検討（2）	調査・実験から得られた分析結果の検討	結果の検討、図・グラフ作成
7	論文の執筆・研究発表（1）	卒業論文執筆状況の発表およびディスカッション	論文執筆（諸言）
8	論文の執筆・研究発表（2）	卒業論文執筆状況の発表およびディスカッション	論文執筆（方法）
9	論文の執筆・研究発表（3）	卒業論文執筆状況の発表およびディスカッション	論文執筆（考察）
10	論文の執筆・研究発表（4）	卒業論文執筆状況の発表およびディスカッション	論文執筆（考察）
11	論文の執筆・研究発表（5）	卒業論文執筆状況の発表およびディスカッション	卒業論文執筆（体裁の確認、完成）
12	要旨の作成	要旨の体裁および作成方法	要旨の作成
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生生活の省察	入学からこれまでの大学生生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ルーブリック（自己）記入 復習：ホスピタリティ・ルーブリック（最終）記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢB (CF402)			担当教員	宮本 彩		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡBにおいて決定した卒業論文のテーマについて取り組み、完成させることを最終目標とする。この卒業論文に向けた研究活動を通して、スポーツへの理解を深めるとともに、論理的に自分自身の意見をまとめることを学ぶ。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	卒業論文の研究テーマとして掲げた内容の背景を理解し、論理的に説明することができる。				レポート	40 %	
情報収集、分析力	関連する文献を収集し、適切に知識および情報を読み取ることができる。				レポート	30 %	
コミュニケーション力	自分自身の経験や文献等から得た知識を基に、他者に対してプレゼンテーションすることができる。また、ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるることができる。				プレゼンテーション ディスカッション	20 %	
協働・課題解決力	測定実施や成果報告会に向けて、主体的に取り組むとともに、他者と協力することができる。				授業態度	10 %	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内での取り組みにおいて、卒業論文を執筆し、完成させる。卒業論文の出来栄（論理的に文章が書けているかなど）について評価し、評価比率は全体の70%とする。なお、執筆に向けて提出させるレポートは、ポートフォリオを通じて学生個々へフィードバックする。</p> <p>また、授業内での取り組みにおいてプレゼンテーションやディスカッションを複数回行う予定である。自分自身の意見を端的かつ論理的にまとめられているかについて評価する。評価比率は全体の20%とする。</p> <p>取り組みに対する主体性と他者との協力について評価する。評価比率は全体の10%とする。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では卒業論文の執筆に向けて、各自が設定した研究テーマについて取り組む。また、その取り組みをレポートやプレゼンテーションとしてアウトプットする。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：特に指定しない</p> <p>指定図書：『健康・スポーツ科学のための卒業論文／修士論文の書き方』 杏林書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本ゼミの内容に興味を持ち、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。</p> <p>ゼミ時間外においても、予習・復習として課題に取り組む必要があることを理解してほしい。</p> <p>いずれの取り組みも自分だけで行うことはできない。他者と協力することを最重要視する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	卒業研究の取り組みを振り返る	夏季休暇中の卒業研究の取り組みを振り返るとともに、今後の卒業研究に向けたスケジュールを再考する	予習：夏季休暇中の卒業研究の進捗をまとめる
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを元に本学期的目標設定を行う。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	進捗状況の発表①	卒業論文の進捗状況の発表およびディスカッション（1）	予習：発表の準備 復習：ディスカッションを踏まえての修正
4	進捗状況の発表②	卒業論文の進捗状況の発表およびディスカッション（2）	予習：発表の準備 復習：ディスカッションを踏まえての修正
5	データの取りまとめ	データの入力方法、解析についてレクチャーする	予習：データの確認 復習：データの取りまとめ作業
6	データの解釈①	調査および実験結果の検討（1）	復習：データを基にした考察
7	データの解釈②	調査および実験結果の検討（2）	復習：データを基にした考察
8	論文執筆①	これまで作成してきたレポートを取りまとめ、卒業論文としてまとめる（1）	予習・復習：卒業論文の執筆
9	論文執筆②	これまで作成してきたレポートを取りまとめ、卒業論文としてまとめる（2）	予習・復習：卒業論文の執筆
10	論文執筆③	これまで作成してきたレポートを取りまとめ、卒業論文としてまとめる（3）	予習・復習：卒業論文の執筆
11	論文執筆④	卒業論文を完成させる	予習：卒業論文の執筆
12	研究発表の準備	卒業論文を基に研究発表として内容をまとめる	復習：プレゼンテーションの準備
13	卒業研究発表（1）	卒業研究発表会（1） 卒業論文の内容についてのプレゼンテーション	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表（2）	卒業研究発表会（2） 卒業論文の内容についてのプレゼンテーション	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	大学生活の省察	入学からこれまでの大学生活の省察を行う	予習：ホスピタリティ・ループリック(自己)記入 復習：ホスピタリティ・ループリック(最終)記入